

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	高知大学
設置者名	国立大学法人高知大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
人文社会科学部	人文社会科学科	—	201	26	46	273	13		
教育学部	学校教育教員養成課程	—		20	228	449	13		
理工学部	数学物理学科	—		24		24	249	13	
	情報科学科	—				26	251	13	
	生物科学科	—				10	235	13	
	化学生命理工学科	—				11	236	13	
	地球環境防災学科	—				24	249	13	
医学部	医学科	—		0		99	300	19	
	看護学科	—				140	341	13	
農林海洋科学部	農林資源科学科	—		32		50	283	13	
	海洋資源科学科	—				24	257	13	
地域協働学部	地域協働学科	—		0	62	263	13		
(備考) 農林資源科学科に農林資源環境科学科開講科目を含む。(令和5年度学部改組のため)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

高知大学ウェブサイト（教育情報の公表） https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	高知大学
設置者名	国立大学法人高知大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

高知大学ホームページ（役職員の状況） https://www.kochi-u.ac.jp/about/public-information/legal-disclosure/information-disclosure-act/personnel-status/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	北海道大学財務部長	R8.4.1- R10.3.31 (2年)	財務・労務管理担当
非常勤	高知弁護士会所属弁護士 のぞみ法律事務所	R8.4.1- R10.3.31 (2年)	法務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	高知大学
設置者名	国立大学法人高知大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【全学共通】</p> <p>本学では2学期制を採用し、各学期に授業15週と試験1週の合計16週の時間を確保するよう学年暦及び年間行事予定を年度ごとに策定しています。</p> <p>授業計画(シラバス)の作成にあたっては、開講の前年度12月までに履修案内(授業の履修方法、卒業のために必要な単位数、授業時間割等を記載した冊子(全学生に配布))の作成過程で開講する授業科目を確定し、1月から2月の間に全学的に定めた統一様式へ、授業実施教員は、授業計画を記載し開講主体である各学部等の確認を経て、本学のウェブサイトを通じて教務情報システムにより学内外へ公表しています。</p> <p>なお、シラバスの内容は授業科目ごとに以下の主な事項で構成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義区分(講義、演習、実習、実験、実技) ・履修希望学生に求めるもの ・授業科目の到達目標 ・授業の概要 ・授業時間外の学習 ・授業計画 ・教科書・参考書 ・成績評価の基準と方法 ・授業実施方法(対面、オンライン同期・非同期) <p>また、「実務経験のある教員等による授業科目」については、教員の実務経験の有無をシラバスに記載しています。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>高知大学ウェブサイト(教務情報システム(シラバス))</p> <p>https://kulas.kochi-u.ac.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1900/3000120/wsl/SyllabusKensaku</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【全学共通】

シラバスの「成績評価の基準と方法」には、授業科目の到達目標に掲げた内容について、どのような方法（期末試験、レポート提出など）で何点の配分で評価するのかを記載しており、この基準により厳格かつ適正に単位を付与しています。

授業では、授業科目ごとに到達目標を達成したかどうかによって成績評価することを基本としており、成績は100点から0点の評点により評価し、60点以上に単位を与えることとしています。また、その評点に対応する評語として、「秀」、「優」、「良」、「可」及び「不可」を用いますが、必要と認める場合は、「合格」又は「不合格」の評語で評価できることとしています。

秀：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績（90点～100点）

優：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績（80点～89点）

良：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績（70点～79点）

可：標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績（60点～69点）

不可：到達目標に示した知識・技能・考え方が理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績（59点以下）

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【全学共通】

本学では、学業成績を評価する方法の一つとして、以下のような計算式によるfunctional GPAという計算方法で対象科目のGPAを算出しています。ただし、科目の評点が59点以下の不可（不合格）のときの「科目の得点-55」は、一律ゼロとして計算し、GPAは、小数点以下第2位を四捨五入します。

$$\text{GPA} = \left[\begin{array}{l} (\text{科目 A の得点} - 55) \div 10 \times \text{科目 A の単位数} \\ + (\text{科目 B の得点} - 55) \div 10 \times \text{科目 B の単位数} \\ + (\text{科目 C の得点} - 55) \div 10 \times \text{科目 C の単位数} \\ + \dots \dots \dots \\ + (\text{科目 Z の得点} - 55) \div 10 \times \text{科目 Z の単位数} \end{array} \right] \div (\text{A} \sim \text{Z の単位数の総和})$$

上記のような方法で算出されたGPAは、履修登録単位の上限の特例が適用される成績優秀者の判定の成績基準などで活用しています。

学部の内部質保証委員会は、毎年度「成績評価分布一覧表」の分析を行い、必要があれば関係教員と調整を行うなどの取組を実施し、結果を全学会議に報告しています。

また、学生からの成績評価に関する異議申立て制度を設けており、シラバスや授業等で周知された授業の到達基準や成績評価の方法から逸脱した評価があると思われる場合は、教務担当事務を通じて異議申立てを行うことが可能となっています。

客観的な指標の算出方法の公表方法	高知大学ウェブサイト（学修成果の評価） https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/assessment-methods/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
【全学共通】	
<卒業の認定に関する方針>	
高知大学では、教育に関する基本目標を達成するために、学士課程のすべての学生が卒業する時に身に付けているべき能力として、以下に示す領域に区分された「10+1の能力」を定める。各学部で定められた教育課程において、所定の単位を修得することにより、これらの能力を身に付けた学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与します。	
領域	10+1 の能力
【対課題】	[専門分野に関する知識]
	[人類の文化・社会・自然に関する知識]
	[論理的思考力]
	[課題探求力]
	[語学・情報に関するリテラシー]
【対人】	[表現力]
	[コミュニケーション力]
	[協働実践力]
【対自己】	[自律力]
	[倫理観]
【統合・働きかけ】	[統合・働きかけ] (上記の諸能力を内的に統合し、周囲の文化・社会・自然・人間などに外的に働きかけていく能力)
<卒業の要件・卒業判定の手順>	
高知大学を卒業するためには、本学に通算4年（医学部医学科は6年）以上在学し、各学部履修規則等に定める必要科目の単位（上記1. 及び2. の方法及び基準により認定された単位）を修得しなければなりません。	
なお、本学に3年間在学し、卒業の要件として所属する学部の定める単位を優秀な成績をもって修得したと認められる場合、本人の申請により卒業が認められることがあります（医学部・地域協働学部を除く）。	
卒業者の決定は、各学部の教授会の議を経て、学長が行います。	

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー) https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/</p> <p>(高知大学の学部規則) https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/faculty-regulations/</p> <p>(高知大学の各学部履修規則) https://www.kochi-u.ac.jp/JA/kisoku_syuu/index.htm</p>
------------------------------	---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文社会科学部
教育研究上の目的（公表方法：高知大学ウェブサイト（学部の教育研究上の目的） https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/faculty-objectives/
（概要） 本学部は、人文社会科学各分野の専門的知識と、それと関連する諸分野に関する学際的教養をそなえて、グローバルかつローカルな課題の把握・解決のために貢献できる人材を養成することを目的としています。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー） https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/
（概要） 高知大学では、教育に関する基本目標を達成するために、学士課程のすべての学生が卒業する時に身に付けているべき能力として、以下に示す領域に区分された「10+1 の能力」を定める。各学部で定められた教育課程において、所定の単位を修得することにより、これらの能力を身に付けた学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与する。 ●人文社会科学部人文社会科学科 ■人文社会科学科 【対課題】 ・グローバル社会と地域に関する人文社会科学の幅広い教養、複眼的な分析・考察に必要な言語・文化・社会、社会制度の基本的な構造に関する専門知識を身につけ、活用できる。 ・人文社会科学諸分野の領域横断的思考を身につけて、個々の専門分野の成果と課題を批判的に考察する一方、現実に行っている様々な社会問題の基本的な構造を理解し、主体的な判断力を身につけて、活用できる。 ・文献資料・データの分析法、外国語の運用能力、多様なメディアによる表現能力、社会科学の調査・研究手法を駆使することにより、学修・研究の成果を、グローバルかつローカルな課題の解決のために発信することができる。 ・数理・データサイエンス・AIに関心を持つとともに、これらを適切に理解し活用するための基礎的な能力を備えている。 【対人】 ・地域文化や地域社会の過去・現在・将来のグローバルあるいはローカルな課題に対し多様な観点からの学問的知見を積極的に用いて研究し、得られた成果を社会に発信することができる。 【対自己】

・グローバル社会における諸問題に関心を持ち、局所的なマイクロレベルから全体的なマクロレベルに至る多様な視座から比較・検討することで課題解決を実践する態度を身につけ、得られた知識を個人のためのみに利用するのではなく、社会全般に還元する観点から活用できる。

【統合・働きかけ】

・異なる価値観を持つ人々との議論や作業を通じて、自らの研究成果の質を高めていくことができる。
・特定の問題に関する「問い」と「答え」を「言葉」によって論理的に表現することができる。

■人文科学コース

【対課題】

・哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等に関する専門知識を身につけ、時代や地域に固有の文化や、時代や地域を越えた普遍的な人間の特性を比較検討しながら理解することができる。
・哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等の人文科学の成果と課題を批判的に考察する思考力を身につけ、活用できる。

〔専門分野に関する知識〕

1. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等に関する知識を複数の分野にわたり修得している。
2. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等のいずれか一つの分野の専門性を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. それぞれの時代・地域に固有の文化や、それを越えて普遍的な人間の特性について、その基本的な構造を理解している。
2. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等の人文科学の成果を利用することができる。

〔論理的思考力〕

1. それぞれの時代・地域に固有の文化や、それを越えて普遍的な人間の特性を、比較検討しながら理解している。
2. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等の人文科学の成果を批判的に考察する思考力を修得し、活用することができる。

〔課題探求力〕

1. 課題の解決に取り組む際、学んだ知識・技能を活用することができる。
2. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等の人文科学の課題を批判的に考察する思考力を修得している。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 文献資料・データの分析法、レポート・卒業論文の作成法、資料保存法等の専門知識に裏付けられた研究方法を駆使することができる。
2. 人文科学の研究で用いる基本的な手法を修得している。
3. 外国語のドキュメントを読み、その内容を理解する読解力を修得している。

【対人】

・文献資料・データの分析法、レポート・卒業論文の作成法、資料保存法等の専門知識に裏付けられた研究方法を駆使して、地域文化や地域社会に関する学修・研究の成果を発信することができる。

〔表現力〕

1. 研究によって得た成果を示すための多様な技法・手段を修得している。
2. 学修・研究の成果を的確かつ客観的に示すことができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 多様な考えをもつ人々の意見を聞き、意思疎通を図ることができる。
2. ディスカッションを通して、互いの学修・研究の内容を知り、高め合うことができる。

〔協働実践力〕

1. 文化や社会において生じる問題など、人間に関わるさまざまな課題に対して、周囲と協力して解決に取り組むことができる。
2. 周囲と協力するにあたって、自らの役割を意識し、責任をもって発言・行動することができる。

【対自己】

- ・ 地域文化や地域社会の過去・現在・将来のグローバルあるいはローカルな課題の解決に取り組む態度を身につけ、実践する。

〔自律力〕

1. 学問に対して真摯に取り組む姿勢を身につけている。
2. 研究のプロセスを客観的に認識し、計画・実行にあたって自らをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 文献・資料の引用など、研究に際しての倫理的な基準を満たしながら研究する姿勢を身につけている。
2. 学修・研究の成果を社会に還元する必要性を理解している。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 異なる価値観を持つ人々との議論や作業を通じて、自らの研究成果の質を高めていくことができる。

■国際社会コース

【対課題】

- ・ 多元化し複雑化するグローバル社会の諸相に対応する上で必要十分な、言語・文化・社会に関する専門的知識を身につけ、その知識を局所的なマイクロレベルから全体的なマクロレベルに至る連続体として理解し、活用できる。
- ・ 多元的価値に基づく複合体としての文化・社会における言語・文化・社会への深い洞察力と人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を涵養し、グローバル社会における諸問題を批判的に考察し、主体的に判断する力を身につけ、活用できる。
- ・ 外国語の運用能力を身につけ、異文化および自文化への理解を深める。

〔専門分野に関する知識〕

1. グローバル社会の諸相に対応する上で必要十分な、言語・文化・社会に関する専門的知識を修得している。
2. 得られた知識を局所的なマイクロレベルから全体的なマクロレベルに至る連続体として理解し、活用できる。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を修得している。

2. 幅広い教養を専門分野の知識と結びつけることができる。

〔論理的思考力〕

1. 多元的価値に基づく複合体としての文化・社会における言語・文化・社会への深い洞察力を修得している。
2. 人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を修得し、活用することができる。

〔課題探求力〕

1. グローバル社会における諸問題を批判的に考察することができる。
2. グローバル社会における諸問題について主体的に判断する力を修得し、それを活用することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 外国語の運用能力を修得している。
2. 異文化および自文化への深い理解力を修得している。
3. 数理・データサイエンス・AI に関心を持つとともに、これらを適切に理解し活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

- ・言語コミュニケーションや異文化および自文化、グローバル社会の問題を主体的に考察・判断するために、獲得した成果や意義を発表し、他者と協働することができる。
- ・異文化および自文化への理解を深め、人文社会科学の領域横断的な思考を通じて獲得した成果や意義を、口頭・文章あるいは多様なメディアによって表現する能力を身につけ、活用できる。

〔表現力〕

1. 獲得した成果や意義を、口頭・文章あるいは多様なメディアによって表現する能力を修得し、それを活用することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 日本語あるいは外国語で他者と意思疎通を図ることができる。

〔協働実践力〕

1. 他者との協働によって様々な問題について多様な視座から比較・検討し課題解決の方法を探ることができる。

【対自己】

- ・グローバル社会における諸問題に関心を持ち、局所的なマイクロレベルから全体的なマクロレベルに至る多様な視座から比較・検討することで課題解決を実践する態度を身につけ、活用できる。

〔自律力〕

1. グローバル社会における諸問題について主体的に関心をもつことができる。
2. 学習のプロセスを意識し、計画・実行にあたってみずからをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 文献・資料の引用など研究に際しての倫理的ガイドラインに即して研究する姿勢を身につけている。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 特定の課題について「問い」をたて、資料を批判的に検討することによってその論理的な「答え」を見出すことができる。
2. 特定の問題に関する「問い」と「答え」を「言葉」によって論理的に表現することができる。

■社会科学コース

【対課題】

- ・経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学を幅広く学び、かつ特定分野を段階的に集中して学び、当該分野の専門性を身につける。社会科学で用いる研究手法だけでなく、情報解析のツールの利用方法を習得することで社会制度の基本的な構造を多角的に検討し、理解することができる。
- ・現実に起こっている様々な社会問題の基本的な構造を理解し、必要な知識・技能を動員して課題解決に取り組むことができる。

〔専門分野に関する知識〕

1. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学に関する知識を複数の分野にわたり修得している。
2. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学のいずれか 1 つの分野の専門性を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 現実に起こっている社会問題を把握することができる。
2. 社会制度の基本的な構造を理解している。

〔論理的思考力〕

1. 社会問題の基本的な構造を理解している。
2. 社会で生じている問題と社会制度の関係を把握することができる。

〔課題探求力〕

1. 現実に起こっている社会問題を観察し、課題設定ができる。
2. 学んだ知識・技能を動員して課題解決に取り組むことができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 現代社会における基本的な情報解析の手法を利用できる。
2. 社会科学で用いる研究手法を修得している。
3. 外国語のドキュメントを読み、その内容を理解する読解力を修得している。

【対人】

- ・多様な考え方をもち人々と協力しながら研究を進め、その成果を社会に広く示すことができる。

〔表現力〕

1. 研究を通じて得た成果を示すための多様な技法・手段を修得している。

〔コミュニケーション力〕

1. 多様な考えをもつ人々の意見を聞き、意思疎通を図ることができる。

〔協働実践力〕

1. 社会における課題に対して、周囲と協力して解決に取り組むことができる。

【対自己】

- ・学問に対して真摯に取り組み、体系的に理解して、得られた知識を個人のためのみに利

用するのではなく、社会全般に還元する態度を身につけ、活用できる。

〔自律力〕

1. 研究のプロセスを意識し、計画・実行にあたって自らをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 得た知識を個人のためのみ利用するのではなく社会全般に還元する態度を身につけている。
2. 文献・資料の引用など、研究に際しての倫理的ガイドラインに即して研究する姿勢を身につけている。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 異なる価値観を持つ人々との議論や作業を通じて、自らの研究成果の質を高めていくことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●人文社会科学部人文社会科学科

■人文科学コース

【教育内容】

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を身につけるために、共通教育科目を配置しています。
2. 共通教育で身につけた幅広い教養を専門分野の知識と結びつけ、人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を身につけるために、プラットフォーム科目を配置しています。
3. 哲学、心理学、歴史学、地理学、考古学、文学、言語学等に関する専門知識をしっかりと身につけるために、専門科目を配置しています。
4. 時代や地域に固有の文化や、時代や地域を越えた普遍的な人間の特性を比較検討しながら理解することができる力を獲得するため、4年間を通して少人数の演習科目（ゼミナール）を配置しています。
5. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. 人文科学の成果と課題を批判的に考察する思考力を身につけ、活用できるようになるために、文芸・思想、歴史・地理学の2プログラムを配置し、それらを有機的に学べるように学修ポートフォリオを活用するなどして個別に指導します。
2. 人文科学の研究方法を駆使して、地域文化や地域社会に関する学修・研究の成果を発信することができる力を身につけるために、グループワーク、実習、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を展開し、自律的な学修を促します。
3. 卒業論文作成の過程では、文献資料や聞き取り資料、データの分析法など人文科学の研究方法を身につけ、さらにその学修・研究の成果を発信できるようにします。

【教育評価】

1. 4年間の学修の成果である卒業論文には、複数教員で審査を行うとともに、卒業論文報告会で研究成果を広く公表します。
2. 授業アンケート、単位修得状況等のデータをもとに、教育内容・方法等の評価を行います。

■国際社会コース

【教育内容】

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を身につけ、基礎的な外国語運用能力を会得するために、共通教育科目を配置しています。
2. 共通教育で身につけた幅広い教養を専門分野の知識と結びつけ、人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を身につけるために、プラットフォーム科目を配置しています。
3. 外国語の運用能力を身につけ、それに基づきコミュニケーション能力と異文化および自文化への深い理解力を獲得するために、共通教育とプラットフォーム科目に外国語科目を配置しています。
4. 言語・文化・社会への深い洞察力を身につけ、グローバル社会における諸問題を批判的に考察することができる力を獲得するために、コースに専門科目を配置し、それらの専門科目を学修目的に沿って教育プログラムとして編成しています。
5. グローバル社会における諸問題について主体的に判断する力を身につけ、それを活用することができるように、ゼミナールを三年間（二年次から四年次）配置し、必修とします。
6. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. ゼミナールにおいては、学生一人ひとりの成長を促すため、輪読、ディスカッション、プレゼンテーション、個別指導等の多様な教育方法を取り入れます。
2. 多様な科目群において、ペアやグループワーク、グループ・ディスカッション、実習、アクティブ・ラーニング等を取り入れます。
3. コースFDを開催し、教育課程の点検を行い、改善を図っています。

【教育評価】

1. 3年次のゼミナールにおいては学生の能力の中間的な到達度を測るため、4年次のゼミナールでは能力の到達度を評価するために、パフォーマンス評価を行います。
2. 学修の最終的な成果である卒業論文は、複数教員による審査を行い、卒論報告会等で成果を広く公表します。
3. 授業アンケートや単位修得状況等のデータをもとに、教育内容・方法等の評価を行います。

■社会科学コース

【教育内容】

1. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学の専門性を複合的に高めるために、共通教育、専門科目を配置しています。
2. 経済学、経営学・会計学、法学・政治学のいずれか1つ以上の専門性を高めるために、専門科目を群（プログラム）にわけて配置しています。
3. 社会制度や社会問題の課題の解決に取り組むために、4年間を通して各学期に少人数の演習科目（ゼミナール）を配置しています。また、その担当者がアドバイザーとして学生の学修の助言を行います。
4. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. 少人数の演習科目（ゼミナール）では、学修ポートフォリオやルーブリックなどを用いて学生ひとり一人の形成的な評価のため到達度等についてのフィードバックを行います。
2. 専門性を複合的に高めるために、多分野の教員によるチームティーチングを取り入れます。
3. 社会制度や社会問題の課題に学生が自律的に取り組むことができるようアクティブ・ラーニング等、学生が自律的に学修できる教育方法を取り入れます。

【教育評価】

1. 3年、4年次の少人数の演習科目（ゼミナール）における研究成果である卒業論文に複数教員による審査を取り入れ、卒論報告会で研究成果を広く公表します。
2. 卒業論文の作成過程、審査、報告における評価、その他科目の単位修得状況等から教育内容・方法の評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー）

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

（概要）

●人文社会科学部人文社会科学科

人文社会科学部人文社会科学科は、「現代社会のグローバルな課題やローカルな課題の解決に取り組む人材」を養成します。

本学部では「人文科学・社会科学の中の特定の学問分野のみならず、課題の解決に関連のある人文科学・社会科学の他の学問分野を見つけたいという旺盛な好奇心を持つ者」を求めます。

学部・学科共通のアドミッション・ポリシーに加えて、コース個々のアドミッション・ポリシーを以下に示します。

■人文科学コース

人文科学コースは、「哲学・心理学・歴史学・地理学・文学等について学び、グローバルな視点とローカルな視点の双方から過去や現在の地域文化の特性や、人間そのものに対する考え方について批判的な精神をもって理解し、社会・文化の維持・発展に貢献できる人間」を養成します。

本コースでは、このような人材養成の基盤となる、以下の資質を有する者を求めます。

知識・技能

1. 高等学校等で諸科目を幅広く履修し、基礎的な素養を身につけている。

2. 主として言語による、正確で論理的な表現技術を身につけている。

思考力・判断力・表現力

1. 物事を論理的にとらえ、判断し、的確に表現することができる。

主体性・多様性・協働性

1. 地域の文化や地域社会の課題、人類全体に共通の普遍的な問題について、主体的に考えることができる。

関心・意欲

1. 地域の文化や地域社会の課題、人類全体に共通の普遍的な問題について関心を持ち、取り組む意欲がある。

■国際社会コース

国際社会コースは、「多様な視点を持って異文化・自文化を理解し、グローバル化に対する批判的考察ができる人間、また言語・文化・社会に関する専門的知識と外国語の運用能力を生かして、グローバル社会の課題解決に貢献できる人間」を養成します。

本コースでは、このような人材養成の基盤となる、以下の資質を有する者を求めます。

知識・技能

1. 多元的価値を学び、理解するのに必要な基礎的な素養、すなわち高等学校卒業程度の教科学習（「外国語」を中心とした教科）に関する知識があり理解している。

2. 十分な日本語力と高等学校卒業程度の外国語によるコミュニケーションの技能を有する。

<p>思考力・判断力・表現力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 得られた知識を相互に関連づけて、グローバル化に対して批判的に思考し判断する力を有する。 2. 目的や場面に応じて適切な言語とメディアを選択し、学習の成果などを発信する基礎的な力を有する。 <p>主体性・多様性・協働性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語・文化・社会の多様性を理解しつつ、多様な人々と協働する能力を身につけている。 2. 世界の人々と積極的に関わり、地域社会に貢献する素養がある。 <p>関心・意欲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界における多様な言語・文化・社会の問題に強い関心を持っている。 2. 世界の人々と積極的に関わり、地域社会に貢献する意欲がある。 <p>■社会科学コース</p> <p>社会科学コースは、「経済学・経営学・会計学・法学・政治学等について複合的に学び、社会制度に関する幅広い教養と専門的能力を身につけ、社会的問題に実践的に取り組む人間」を養成します。</p> <p>本コースでは、このような人材養成の基盤となる、以下の資質を有する者を求めます。</p> <p>知識・技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校等で履修した科目について基礎的事項を理解している。 <p>思考力・判断力・表現力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会に存在する諸問題の解決に、専門・学際両面から取り組むための論理的思考力と理性的判断力を有する。 2. 社会や自己を客観的にとらえることができ、自己の考えを他者に伝わるように表現することができる。 <p>主体性・多様性・協働性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科系の科目を積極的に学び、読書等を通じ、社会制度、社会問題に関する知識や理解力を高める習慣を獲得している。 <p>関心・意欲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済・経営・会計・法律・政治等に関連する社会的なことからについて、主体的に課題を発見し、多面的に課題を検討して、課題の解決に取り組む意思がある。
--

<p>学部等名 教育学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的) https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/faculty-objectives/</p>
<p>(概要) 教育学部は、教育基本法の趣旨に基づき、地域に密着しつつ、高度で専門的、個性的な教育研究を行い、教育に対する使命感や豊かな人間性、専門性に裏付けられた実践的指導力を育み、学校教育を推進する上で必要な高い資質能力を有する教員の養成を行うことを目的としています。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー)</p>

(概要)

高知大学では、教育に関する基本目標を達成するために、学士課程のすべての学生が卒業する時に身に付けているべき能力として、以下に示す領域に区分された「10+1 の能力」を定める。各学部で定められた教育課程において、所定の単位を修得することにより、これらの能力を身に付けた学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与する。

●教育学部のディプロマ・ポリシー

【対課題】

〔専門分野に関する知識〕

1. 教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を修得している。
2. 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を修得している。
3. 子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を修得している。
4. 学級経営や授業構成のために必要な基礎理論・知識を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 将来教員として担当する教科等について専門的な知識を修得している。
2. 地球、国家、人間等に関して理解するための基礎的な教養を修得している。
3. 社会の変化に適応するための幅広い知識、技術を修得している。

〔論理的思考力〕

1. 客観的に物事を捉え、子どもの立場に立った授業構成を考えることができる。
2. 社会における教育のありかたについて、適切な情報の収集と分析を行うことができる。

〔課題探求力〕

1. 教科書にある題材や単元、目的等に応じた教材・資料を開発・作成することができる。
2. 自己の実践的指導力をめぐる課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を修得している。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 情報機器の活用に係る基礎理論・知識を修得している。
2. コンピュータサイエンス・AIに関心を持つとともに、これらを適切に理解し、教育に関わる情報の整理と分析を行うことができる。
3. 社会の国際化にあわせ、外国語でコミュニケーションをとることができる。

【対人】

〔表現力〕

1. 板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を修得している。
2. 学校に関わる様々な人を知り、これらの人や場に応じた表現の技術を修得している。

〔コミュニケーション力〕

1. 子どもたちの発達段階を考慮して適切に接することができる。
2. 他者の意見やアドバイスに耳を傾け、確かな教育実践に必要とされるコミュニケーション能力を修得している。
3. 学校に関わる様々な人を想定し、多様な人とコミュニケーションをとろうとする態度を修得している。

〔協働実践力〕

1. 保護者や地域との連携協力の重要性を理解している。
2. 他者と協働して課題に取り組み、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなしたりすることができる。

【対自己】

〔自律力〕

1. 挨拶・言葉遣い・服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項を身につけている。
2. 自らの置かれた状況を理解し、学び続けようとする態度を持っている。

〔倫理観〕

1. 子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。
2. 教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解している。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. これまで修得した知識と技能を教育活動のなかで活かすとともに、自己課題の克服のために探究し続けることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●教育学部

教育学部のカリキュラムは、実践的で指導力ある教員を養成することを目標として、構成する科目を、学修内容と学修する学年の2つの軸で位置づけています。一つは、教員養成に関わって必要とされる学修内容のまとまりから構成される6つの系です。もう一つは、6つの系を学年に応じて横に区切った段階であり、各学年で学ぶ内容の学修順序を示すことで、学修内容の系統性を示します。これら2つの軸による位置づけで科目群が構成されています。

【教育内容】

1. 社会人として必要とされる能力や教養を身につけるために、共通教育科目として、導入科目群・教養科目群の科目を配置します。
2. 教育の現代的課題や意義、教育に関する基礎理論を身につけるために、教育原理、子どもの発達、教育の社会的・経営的側面に関する科目を配置しています。
3. 各教科の学修内容や学修方法について、理解し、授業する力を身につけるため、各教科指導法、教育内容に関する科目を配置しています。
4. 乳幼児の発達段階、発達障害等の障害特性に応じた指導力を身につけるため、幼児や特別支援教育に関する科目を配置しています。
5. 実践的指導力を身につけるための体験型授業を学年段階で配置しています。
6. 教育に関する専門的な知識を広く深く身につけるために、学修の集大成として「教職実践演習」を配置しています。

【教育方法】

4年間を通して実践的指導力のある教員を養成するための学年段階に応じた教育方法を展開します。

1. 1年次には、教職への入門、子ども理解のための講義やグループワークなどによるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施します。
2. 2年次には、教師の役割についての基礎的知識と学校教育・学校地域連携の理解などを深めるために各教科指導法などを実施します。
3. 3年次には、学習指導・教科内容についての理解の深化と実践的な力量の基礎を身につけるため「教育実習」、「教材開発演習」などを実施します。
4. 4年次には、教師としての実践的指導力の統合・深化を図るため、「教職実践演習」などを実施します。
5. 附属学校園、公立学校および社会福祉施設において実習を行い、大学で学んできたさまざまな理論や技術を適用・検証し、実習後の研究上の課題を発見すると同時に、自己の教職適性を振り返る機会とします。

【教育評価】

1. 各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習・実験成果等で評価

- します。卒業論文については、複数教員による審査を行い、論文及び発表会での報告により評価します。
2. 学生自身が学年ごとに学びを振り返り、自己の課題を設定する「履修カルテ」を作成し、学生自身で到達度や形成的評価活動を行います。さらに、教員がフィードバックを行い、年度ごとの学びを評価します。
 3. 4年間の学修成果は、「教育実習」及び実習に関連する科目によって、その到達目標の到達度での総括的評価を行います。
 4. 教育学部の IR 調査や単位取得状況等のデータをもとに、教育内容・方法等の評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

教育学部は、「幅広い教養と教育（保育）とりわけ学校教育に関する総合的な理解を持ち、教育を深く探求して学校教育をめぐる諸課題の解決に向け適切な方策を考えることができ、確かな教育実践に必要な高い技能と豊かなコミュニケーション能力を身につけ、教育（保育）という営みや教師（保育士）という仕事に深い関心を持って主体的に探求し続けることができる人材」を養成します。本学部では、このような人材養成の基盤となる、以下の能力・態度を有する者を求めます。

【知識・技能】

1. 教育実践に必要とされる教養や教育（保育）に関する専門的な知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の各教科に関する知識・技能を有する。

【思考力・判断力・表現力】

1. 学習した内容を理解する能力を有する。
2. 論理的に思考する能力を有する。
3. 学習した内容を状況や課題に応じて活用したり応用したりする能力を有する。
4. 学習した内容や自分の意見を他者に対して適切に表現する能力を有する。

【主体性・多様性・協働性】（※主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

1. 主体的に課題を探究する態度を有する。
2. 課題について多様な考え方を有する態度を有する。
3. さまざまな人々と協働して課題を解決する態度を有する。

【関心・意欲】

1. 教育（保育）と教師（保育士）の仕事について強い関心を持っている。
2. 教職への意欲を持っている。

学部等名 理工学部

教育研究上の目的

(公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/faculty-objectives/>

(概要)

総合的な教養及び物理学や理工学に関する専門的知識と理工学的な視点及び、グローバル化する社会の中で、自らが課題を発見しそれを解決していける能力を身に付けさせ、社会における様々な分野で活躍できる人材を育成することを目的としている。

1. 数学物理学科

数学コース及び物理科学コースの2つのコースを置き、数学分野と物理科学分野の研究に基づいた教育プログラムを学生に提供することによって、論理的思考力・問題解決能力を強固に身に付け、それらを用いることによって基礎理学の進展と応用を目指し、社会における様々な理学分野で活躍できる人材の育成を目的とする。

2. 情報科学科

計算システム科学、ソフトウェア科学、数理情報学の研究に基づいた教育プログラムを学生に提供することによって、論理的思考力を身に付け、さらに高度情報化社会で幅広く活躍できる人材の育成を目的とする。

3. 生物科学科

生物科学の各学問分野の研究に基づいた教育プログラムを学生に提供することによって、問題解決のためにデータを正しく活用し、生物多様性や自然環境保全などの諸問題を自立的に解決する能力を身に付けた人材の育成を目的とする。

4. 化学生命理工学科

化学と生命科学の基礎から応用にわたる総合的研究に基づいた教育プログラムを学生に提供することによって、物質・材料、環境、生命など社会で生じる諸課題の実践的解決に、柔軟な思考力で取り組むことができる創造性豊かな人材の育成を目的とする。

5. 地球環境防災学科

地球環境、自然災害の研究に基づいた教育プログラムを学生に提供することで、自然が関わる事象（環境・防災・減災・地域作り）に対して適切な課題設定のもとで問題解決する能力を身に付けた人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

高知大学では、教育に関する基本目標を達成するために、学士課程のすべての学生が卒業する時に身に付けているべき能力として、以下に示す領域に区分された「10+1 の能力」を定める。各学部で定められた教育課程において、所定の単位を修得することにより、これらの能力を身に付けた学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与する。

●理工学部

■数学物理学科

【対課題】

- ・数学と物理科学のそれぞれの分野における専門知識を修得するとともに汎用的技術を身につけ、的確に活用することができる。

・ 数学的・論理的な判断ができ、自然法則に基づき、それぞれの分野における専門知識を適切に活用し、数理的に課題や問題を的確に表現できる。

・ 数学と物理科学のそれぞれの分野に固有の研究手法の基礎を身につけている。

〔専門分野に関する知識〕

1. 数学又は物理科学に関する基本的知識を修得している。
2. 数学又は物理科学に関して自身が専門とする分野の高度な知識を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 文化・社会に関する一般教養を修得している。
2. 理工学の根幹となる自然科学についての基礎知識を修得している。

〔論理的思考力〕

1. 数学及び物理科学の基盤となる論理的思考を厳密に行える。
2. 数学又は物理科学の視点から他人の論述を論理的に検討できる。

〔課題探求力〕

1. 考察対象についての情報を整理する過程で、分かっていることと、分かっていないことを峻別することができ、課題の存在を見出すことができる。
2. 問題を数学又は物理科学における諸概念を用いて定式化することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 情報活用能力を身につけ適切に利用することができる。
2. 数学又は物理科学を学ぶ上で必要となる基本的な英語を修得している。
3. 数理・データサイエンス・AIに関心を持つとともに、これらを適切に理解し活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

・ 数学と物理科学のそれぞれの分野に固有の研究を遂行するために、主体的に他者と関わることができる。

〔表現力〕

1. 伝えるべき内容を論理的な文章として、また、数式や図表を使って表現することができる。
2. 伝えるべき内容を論理的に、口頭等で説明を行うことができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 議論に参加し、他者との意見のやり取りの中で主体性を保ちつつ、結論をまとめ上げることができる。
2. 自分が伝えたいことを、論理的に、分かり易く相手に伝える技法を修得している。

〔協働実践力〕

1. 他者と考察対象についての設定を共有し、議論、コミュニケーションの過程を通じて理解を深めていくことができる。
2. コミュニティの中で自らの役割を認識し、適切な行動を取ることができる。

【対自己】

・ 数学と物理科学のそれぞれの分野に対して常に関心を持ち、的確に課題や問題を表現し、必要な文献等を収集するなどしてそれらを解明しようとする意欲を有している。

・ 自然法則を理解し、過去にあまり経験のない状況に直面しても、数学的・論理的に柔軟に対応していこうという態度を有し、修得した知識や技術を実際の場面に適切に応用する態度を有している。

〔自律力〕

1. 課題に対して、自ら解決策を考えることができる。
2. 課題解決のために必要な行動を自ら起こすことができる。

〔倫理観〕

1. 科学に携わる者として必要となる倫理観を身につけている。
2. レポート・卒業論文等において守るべきルールに従って準備・作成することができる。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 自らが属するコミュニティにおいて、数学又は物理科学に関する知見に基づき、自ら

の課題を設定することができる。

2. 自らが属するコミュニティにおいて、数学又は物理学に関する知見に基づいて、考察対象の定式化、分析を行い、より良い成果を導くことができる。

■情報科学科

【対課題】

- ・計算システム科学、ソフトウェア科学、数理情報学の各分野における専門知識を体系的に修得し、情報科学分野の最新的话题を的確に理解できる。
- ・数理的・論理的な判断ができ、情報倫理に基づき、ハードウェアとソフトウェアに関する専門知識を適切に活用できる。
- ・課題や問題を情報科学的視点で表現し解明するためのアルゴリズム表現手法や情報処理技術を身につけ活用することができる。

〔専門分野に関する知識〕

1. 情報科学に関する基本的知識を修得している。
2. 情報科学に関する専門とする分野の高度な知識を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 情報科学の基礎や背景となる自然科学に関する基礎知識を修得している。
2. 情報科学と文化・社会の関わりについての基礎知識を修得している。

〔論理的思考力〕

1. 情報科学の基盤となる数理的・論理的思考を厳密に行える。
2. 様々な問題に対してハードウェア、ソフトウェア、情報倫理の視点から論理的に検討できる。

〔課題探求力〕

1. 考察対象についての情報を整理する過程で、分かっていることと、分かっていないことを峻別でき、課題の存在を見出すことができる。
2. 課題の解決に取り組む過程で、問題を情報科学における諸概念を用いてモデル化することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 情報科学を学ぶ上で必要となる基本的な英語を修得している。
2. 情報を処理するために計算機システムを利用することができる。
3. 数理・データサイエンス・AIに関心を持つとともに、これらを適切に理解し活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

- ・課題や問題を情報科学的視点で表現し解明するために、他者と主体的に関わることができる。

〔表現力〕

1. 課題を情報処理技術によって解決するために、アルゴリズムやプログラムを記述することができる。
2. 伝えるべき内容を論理的な文章として表現したり、口頭等で発表したりできる。

〔コミュニケーション力〕

1. アルゴリズムやプログラムの要点を相手に簡潔に伝え、改善すべき点を議論できる。
2. 課題を解決するために適した情報処理技術は何かを議論できる。

〔協働実践力〕

1. 他者と考察対象についての設定を共有し、議論やコミュニケーションを通じて理解を深めていくことができる。
2. コミュニティの中で自らの役割を認識し、適切な行動を取ることができる。

【対自己】

- ・情報科学の諸分野に対して常に関心を持ち、課題や問題を情報科学的視点で表現し、必要な文献等を収集するなどしてそれらを解明しようとする意欲を有している。
- ・情報倫理に基づき、高度情報化社会の急速な変化に直面しても、修得した知識や技術を生かして数理的・論理的に柔軟に対応していこうという態度を有している。

〔自律力〕

1. 課題に対して、情報科学的な視点で自ら解決策を考えることができる。
2. 課題解決のために自ら必要な行動を起こすことができる。

〔倫理観〕

1. 情報科学に携わる者として必要となる倫理観を身につけている。
2. レポート・卒業論文等において守るべきルールに従って準備・作成することができる。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 自らが属するコミュニティにおいて、情報科学の知見に基づき、周囲と議論などをしながら、自らの課題を設定することができる。
2. 自らが属するコミュニティにおいて、情報科学の知見に基づいて、考察対象のモデル化、分析を行い、よりよい研究成果を導くことができる。

■生物科学科

【対課題】

- ・分類学、生態学、古生物学、比較生化学、細胞生物学、生理学、分子進化学の生物学諸分野について専門的な知識と野外調査・室内実験の技術を修得し、生物及び生物圏の在り方を共時的・通時的な視点から理解している。

〔専門分野に関する知識〕

1. 生物科学に関する幅広い基礎知識を修得している。
2. 生物科学に関して自身が専門とする分野の高度な知識を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 文化・社会に関する一般教養を修得している。
2. 理工学の根幹となる自然科学についての基礎知識を修得している。

〔論理的思考力〕

1. 生物科学の基盤と成る論理的思考を厳密に行える。
2. 生物科学の視点から他人の論述を論理的に検討できる。

〔課題探求力〕

1. 考察対象についての情報を整理する過程で、分かっていることと分かっていないことを峻別することができ、課題の存在を見いだすことができる。
2. 課題解決に取り組む過程で、問題を生物科学における諸概念を用いて定式化することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 情報科学に関する知識を修得し、解析ソフトや作図ソフト等を適切に活用することができる。
2. 生物科学を学ぶ上で必要となる英語を修得している。
3. 数理・データサイエンス・AIに関心を持つとともに、これらを適切に理解し活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

- ・異分野を含む様々な学生・研究者と生物学に関する意見交換ができる素養を身につけている。

〔表現力〕

1. 伝えるべき内容を論理的な文章や図表を用いて表現することができる。
2. 自分の考えを異分野の聴衆にもよくわかるように、論理的に口頭等で発表することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. グループワーク等において、議論に参加し、他者との意見のやり取りの中で主体性を保ちつつ、グループとしての結論を纏め上げることができる。
2. 自分の伝えたいことを論理的で分かり易く相手に伝える技法を修得している。

〔協働実践力〕

1. 他者と考察対象についての設定を共有し、議論、コミュニケーションの過程を通じて

理解を深めていくことができる。

2. コミュニティの中で自らの役割を認識し、適切な行動をとることができる。

【対自己】

- ・様々な生物学の分野に関する知識を積極的に収集し、それらを結びつけることにより、生物の在り方を総合的に理解しようとする意欲を有している。

〔自律力〕

1. 課題に対して、自ら解決策を考えることができる。
2. 課題解決のためのプロセスを意識し、自ら必要な行動を起こすことができる。

〔倫理観〕

1. 科学に携わる者として必要な倫理観を身につけている。
2. レポート・卒業論文等において、厳守すべきルールに従って準備・作成、発表できる。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 自らが属するコミュニティにおいて、修得した生物科学に関する知見に基づき、周囲と議論しながら自らの課題を設定することができる。
2. 自らが属するコミュニティにおいて、生物科学に関する知見に基づき、考察対象の定式化、分析を行い、より良い研究成果を導くことができる。

■化学生命理工学科

【対課題】

- ・化学や生命科学の基礎力を身につけており、それらを統合して各専門分野の最新情報を理解し活用することができる。
- ・実験から得た事実を論理的に考察し、現象の本質を把握することができる。
- ・実験技術とデータ解析技術を身につけ、様々な課題を自ら解決する汎用力を持っている。

〔専門分野に関する知識〕

1. 化学と生命科学に関する基礎知識を修得している。
2. 遭遇した課題に対して専門とする分野の高度な知識を的確に活用することができる。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 専門的知識や技能などの背景となる文化・歴史・自然についての知識を修得し、自らの専門領域との関係を理解している。
2. 理工学の根幹となる自然科学について基礎知識を修得している。

〔論理的思考力〕

1. 化学や生命科学の基盤と成る論理的思考を厳密に行える。
2. 専門分野に固有の考え方を修得し、未知の課題を論理的に検討できる。

〔課題探求力〕

1. 専門分野で学んだ知識をもとに新たな課題を自ら見出すことができる。
2. すでに身につけた専門的知見を掘り下げ、課題解決のためにどのような知見が必要かを見極めながら進むことができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. パソコンに関する知識を修得し、解析ソフトや作図ソフトを適切に活用することができる。
2. 専門の文献を読むために必要となる英語力を修得している。

【対人】

- ・専門知識及び研究成果を、適切な言葉で筋道立てて表現できる。
- ・化学や生命科学に関する研究を遂行するために、他者と主体的に関わることができる。

〔表現力〕

1. 専門分野における学術用語を適切に用いて課題を的確に表現することができる。
2. 研究成果を論理的に記述し、聴衆に理解できるように口頭等で発表することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 課題に関して専門知識を用いて他者と意志疎通を図ることができる。
2. 他者に自分の考えや意見を筋道立てて述べることができる。

〔協働実践力〕

1. 他者と問題意識を共有し、協力しながら課題解決にあたることができる。
2. グループの中で自らの役割を認識し、適切な行動をとることができる。

【対自己】

- ・化学や生命科学に加え、学際分野についても高い関心と疑問を持ち、自ら課題を探究し、解決する意欲を有している。
- ・常に学問的興味・関心を失うことなく、修得した知識と技能を社会へ還元し得る態度を有している。

〔自律力〕

1. 課題に対して、自ら解決策を考えることができる。
2. 課題解決のために自ら必要な行動を起こすことができる。

〔倫理観〕

1. 科学に携わる者として必要となる倫理観を身につけている。
2. レポート・卒業論文等を守るべきルールに従って準備・作成することができる。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 自らが所属するコミュニティにおいて、修得した専門分野の知見に基づいて、周囲と議論しながら自らの課題を設定することができる。
2. 研究プロセスにおいて、周囲と議論を重ねることによって、より良い解決策を見出し、質の向上を図ることができる。

■地球環境防災学科

【対課題】

- ・数学、自然科学、情報処理及び語学に関する基礎知識及び地球環境、自然現象の発生機構、防災に関連する分野の専門知識とスキルを修得し活用することができる。また、地球の成り立ち、国土保全、持続発展可能な社会の概念を理解している。
- ・データに基づいて客観的・論理的な考察をし、適切な結論を導くことができる。環境変化や自然災害リスクに対処できる問題解決能力を有している。過去から現在までの動向を分析し、将来を模索・創造できる広い視野と柔軟な思考力を身につけている。
- ・問題の設定や計画の立案を自発的に行い、それらを実行できる技能を修得している。

〔専門分野に関する知識〕

1. 数学、自然科学、情報処理及び語学に関する基礎知識を修得している。
2. 地球環境、自然現象の発生機構、防災に関連する分野の高度な専門知識とスキルを修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 専門的知識や技能などの背景となる文化・歴史・自然についての知識を修得し、自らの専門領域との関係を理解している。
2. 地球の成り立ち、国土保全、持続発展可能な社会の概念を理解している。

〔論理的思考力〕

1. 地球環境防災分野の基盤となる論理的思考を厳密に行える。
2. 地球環境防災分野の視点から、過去から現在までの動向を分析し、将来の予測を論理的に検討できる。

〔課題探求力〕

1. 問題の設定や計画の立案を自発的に行い、それらを実行できる技能を修得している。
2. 調査・研究結果を論理的にまとめ、自らの見解を正確かつ明解に表現できる。
3. 環境変化や自然災害リスクに対処できる問題解決能力を修得している。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 情報科学に関する知識を修得し適切に活用することができる。

2. 専門分野を学ぶ上で必要となる基本的な語学力を修得している。
3. 数理・データサイエンス・AIに関心を持つとともに、これらを適切に理解し活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

- ・調査・研究結果を論理的にまとめ、自らの見解を正確かつ明解に表現できる。
- ・プレゼンテーションとディベートを通じた問題解決能力を身につけている。

〔表現力〕

1. 専門分野における用語等を用いて課題を的確に表現することができる。
2. 自分の考えを正確かつ明解に表現し、他者によくわかるように記述・発表することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 相手の言うことを解釈や批判を交えないでまず受け入れ、その上で自分の見解を相手に伝えることができる。
2. 自分が伝えたいことを論理的で分かり易く相手に伝えるスキル・技法を修得している。

〔協働実践力〕

1. 他者と問題意識を共有し、協力しながら課題解決にあたることができる。
2. グループの中で自らの役割を認識し、適切な行動をとることができる。

【対自己】

- ・地球上の自然現象や環境・資源と、それらが人間生活に及ぼす影響に関心を持ち、修得した知識と技能を、社会的問題の解決のために活用する意欲を有している。また、継続的な探求により自主的に課題を解決しようとする態度を有している。

〔自律力〕

1. 地球上の自然現象や環境・資源と、それらが人間生活に及ぼす影響に関心を持っている。
2. 修得した知識と技能を、社会的問題を解決するために活用することができる。
3. 継続的な探求により自主的に課題を解決しようとする態度を習得している。

〔倫理観〕

1. 科学に携わる者として必要となる倫理観を身につけている。
2. レポート・卒業論文等において守るべきルールに従って準備・作成することができる。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 修得した専門分野の知見に基づいて、周囲と議論しながら自らの課題を設定することができる。
2. 社会的視点も考慮に入れて課題解決に取り組み、よりよい研究成果を導くことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●理工学部

■数学物理学科

数学および物理学は互いに強い影響を受けながらともに発展してきた学問分野であることを踏まえ、数学および物理学をカリキュラムの中心に据えます。数学・物理学、ひいては自然科学全体にまたがる広い視座を持ちつつ、地域社会・国際社会の変化に柔軟に対応できる力を身につけるために、論理的思考力を涵養し、理学の基礎を身につけながら、「数学コース」「物理科学コース」の2つのコースのもとで数学・物理分野の専門教育を実施

します。

【教育内容】

数学コースでは、解析学分野、幾何学分野、代数学分野、確率・統計学分野に関する基礎的概念を理解し、さらに各分野におけるより高度な専門知識に関する学びを通して、論理的思考力や問題解決能力を涵養し、身につけた力を社会の様々な分野で十分に発揮できる人材を育成するためのカリキュラムを編成しています。

物理科学コースでは、力学・電磁気学・熱統計力学・量子力学の基礎的理解を素地として原子核物理学、宇宙物理学、物性物理学、物性化学の諸分野における先端的知識とともに学修することで、物質がその階層に応じて示す基本法則、現象、性質などの自然の本質を理解しつつ実生活に応用できる人材を育成するためのカリキュラムを編成しています。

数学・物理学の基礎的な知識や研究手法を修得するための「学科基礎科目」、コース毎の高度な専門科目である「学科専攻科目」を配置しています。またそれら学修への基盤を形成しつつ豊かな人間性を涵養するために、幅広く深い教養および社会への視座を養う「共通教育科目」、理工学を学ぶ上での基礎知識を身につける「学部共通科目」もあわせて配置しています。

「共通教育科目」では、社会人として必要になる能力や幅広い教養を身につけるために導入科目や教養に関する科目を配置します。

数学コース・物理科学コースとも、「学科基礎科目」のうち、数学系科目、物理系科目、概論系科目の3分野それぞれの科目を配置して、数学・物理にまたがる広い視野での基礎的な理学教育を実施します。

「学科専攻科目」は、数学・物理学それぞれの分野における発展的な専門的知識に関する科目です。数学コースは「数学コース科目群」に区分された科目群から、物理科学コースは「物理科学コース科目群」に区分された科目群を中心に専門教育を行います。その上で数学・物理科学コースともに最終年次で「卒業研究」8単位を必修とし、学士教育を完成させます。

「学部共通科目」では理工学の基礎となる数学科目、科学者としての倫理、防災に関する知識、リスクマネジメントなどの知識を修得できるよう科目を配置しています。また、「共通教育科目」と合わせ英語科目を年次ごとに体系的に配置することで、グローバル化に対応できる人材を育成します。

また、数学、理科の教員免許状取得に必要な科目を配置し、免許資格取得を可能にします。

【教育方法】

1. 数学、物理科学の各分野の基本的な知識を伝える授業は、講義形式を中心に構成されています。さらに、学生の主体的な学び(アクティブ・ラーニング)を促進するため、講義科目を補完する演習科目を設け、個人ないしは少人数のグループでの演習を行い、その過程で的確な判断力、計算技能を養成すると共に、専門知識の本質の理解を深め、論理的思考力や表現力を養います。
2. 物理科学コースを選択した学生を対象に、物理科学の発展には実験が鍵となることを踏まえ、実験技術を修得しその原理を深く知るために必要な実験科目を配置しています。これらの科目は、レポート作成を中心とした相応の時間外学習を含めた形で授業設計を行います。物理科学コースでは、「基礎物理学実験」(1年次での履修を想定)、「物理科学実験Ⅰ」(同2年次)、「物理科学実験Ⅱ」(同3年次)を必修とし、体系的に学修を発展させます。
3. 必修科目である「卒業研究」では、専任教員の直接的指導のもとに、学修を積み重ねてきた知識、技能に基づき研究を進めることで自立心・課題探求力・共働実践力を養い、さらに卒業論文を主体的にまとめ上げるまでの過程を通して統合・働きかけに関する能力を養います。

【教育評価】

1. 共通教育科目や専門科目のGPAに基づいて、学修成果の総合的な評価を行います。
2. アドバイザー教員が各学生に対する面談を行い、学修状況の確認、指導を行います。
3. 学生に対するアンケート等により、学修内容の総合的な評価を行います。

4. 卒業研究発表会における発表と提出した卒業論文による審査から、在学中の学修成果を総合評価します。
5. 上記の評価に基づいてカリキュラムや指導方法等の点検を行い、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

■情報科学科

情報科学科では、情報科学、情報工学の「計算システム科学」「ソフトウェア科学」「数理情報学」分野に関する知識および情報処理能力を涵養し、その学修を通して論理的思考力を身につけ、さらには高度情報化社会で活躍できる人材を育成するためのカリキュラムを編成しています。

【教育内容】

情報科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、計算システム科学、ソフトウェア科学、数理情報学の各分野における専門知識を体系的に修得し、数理的・論理的な判断ができ、情報倫理に基づいてハードウェアとソフトウェアに関する専門知識を適切に活用できる能力を涵養するため、以下の教育課程を編成しています。

〔共通教育科目〕

社会人として必要になる能力や幅広い教養を身に付けるために導入科目や教養に関する科目を配置します。

〔学科基礎科目群〕

本科目群は、以下の科目を必修科目とすることにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる情報科学の基礎的な知識、プログラミングや情報処理に係る手法を修得し、学科専攻科目における高度な専門科目へとつなげることを目的としています。また、選択科目として、理学の他分野の概論科目や情報科学の基礎となる数学・物理学の科目を配置することで、より広範な知識の修得が可能となります。

「物理学概論」、「情報科学概論」、「理工学情報処理演習」、
「プログラミング演習Ⅰ」、「プログラミング演習Ⅱ」

〔学科専攻科目群〕

本科目群に配置される科目を「計算システム科学分野科目」、「ソフトウェア科学分野科目」、「数理情報学分野科目」に区分し、各分野の基幹となる科目を必修科目とします。「計算システム科学分野科目」では、「計算機システム学」を必修科目とし、情報処理の基本数学、論理回路の設計、仮想計算機のアセンブリ言語によるプログラミングを学修することにより、ハードウェアとソフトウェア両面の基礎的な知識を修得します。「ソフトウェア科学分野科目」では、「アルゴリズムとデータ構造」を必修科目とし、プログラム設計の基本となるアルゴリズム・データ構造に関する専門的な知識を修得します。「数理情報学分野科目」では、「数値解析」を必修科目とし、計算機が行う数値計算の仕組みに関する学修を行い、より早くより精度の高い計算結果に繋がる計算式を立案できる能力を育成します。

このような情報科学に関する知識・技法の修得を基礎として、高学年次にはより発展的な配置とすることで、卒業論文へと繋がる体系的な学びを提供します。

【教育方法】

1. 専門科目では、計算システム科学分野、ソフトウェア科学分野、数理情報学分野の専門的な科目を自由に選択できるように配置することで学生の得意分野を伸ばします。
2. 3年次第2学期のゼミナール授業科目にて研究室への仮配属を行い、4年次から始まる卒業研究へスムーズにつないでいきます。
3. 卒業研究では少人数のゼミナールでの指導を行います。また、卒業研究発表会での研究成果の発表と、質疑応答で学修の深化をはかります。
4. 教育用電子計算機システムを導入し、計算機実習室のコンピュータを学生が自由に使えるようにすることで、学生のプログラミング学習等における時間外学習を促します。

【教育評価】

1. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」等により学生の到達度を把握します。
2. 学士力確認試験により形成的評価を行うことで学生の到達度を把握します。

3. 学生の到達度をもってカリキュラムの評価とします。
4. 上記の評価に基づいてカリキュラムや指導方法等の点検を行い、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

■生物科学科

生物科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、生物科学関連分野の成果を共時・通時的視点からも理解できる能力、および生物科学に関わる諸問題を解決する能力を涵養するため、以下の教育課程を編成しています。

【教育内容】

〔共通教育科目〕

社会人として必要になる能力や幅広い教養を身につけるために導入科目や教養に関する科目を配置しています。

〔学部共通科目群〕

本学部では、イノベーションの創出に関わる、あるいはそれに強い関心を持ち、理工学の視点から防災も含めたリスク管理に関する基礎知識を身につけた人材を育成するために、理工学の基礎となる「数学概論」に加え、学部共通科目として、「理工系数学」、「科学者・技術者倫理」、「防災理工学概論」、「リスクマネジメント」、「理工学研究プロポーザル」の必修科目を配置しています。

さらに、グローバル化に対応できる人材を育成するために、「英会話」（共通教育：1年次）、ネイティブスピーカーによる「科学英語」（2年次）、「理工学英語ゼミナールⅠ」（3年次）、「理工学英語ゼミナールⅡ」（4年次）を必修とします。

〔学科基礎科目群〕

ディプロマ・ポリシーに掲げる分類学、生態学、古生物学、比較生化学、細胞生物学、生理学、分子進化学の生物科学の諸分野について基礎的な知識を修得するために、1～2年次に履修することのできる「理学情報処理演習」、「植物分類学」、「動物分類学」、「生態学」、「古生物学」、「比較生化学」、「動物生理学」、「細胞生物学」の8科目を必修とします。

また、生物科学分野に係る基礎的な知識を修得するために、「生物学概論」、「地球科学概論」を選択必修科目、基礎実験科目を選択科目として配置しています。

〔学科専攻科目群〕

専門分野の調査や実験に関する基本的な技術と知識を修得し、卒業研究における本格的な研究への取り組みに備えるとともに、平行して履修する周辺の専門分野の実験を通じて、自分の専攻以外のものを含む幅広い視点に基づく研究の立案・位置付け・考察を可能とする素養を身につけるために、学科専攻科目群を配置しています。

学科基礎科目で修得した生物科学の基礎的な知識・実験技法などを基に、2～3年次に履修できる高度な実験科目を10科目（「植物地理学実習」、「動物生理学実験」、「古生物学実習」、「臨海実習」、「比較生化学実験」、「植物分類学実験」、「植物生態学実験」、「海洋生物学実験」、「細胞生物学実験」、「陸水生物学実習」）配置し、うち3科目6単位以上を選択必修とします。

【教育方法】

学生が主体的・自律的に学ぶ力を高めるために、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施するとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。

1. 野外実習や実験科目などでは、多様な生物科学の世界にふれ、講義で得た知識を応用・発展させ、生物科学研究を行うための実践的な能力を身につけるとともに、コミュニケーション力や協働実践力を養うように進めます。
2. 英語科目は、4年間を通して配置し、体系的に学習することで、生物科学の研究を英語で理解し、その内容を発表する能力を身につけます。
3. 学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の達成度」等の指標に基づいて、

カリキュラムの評価を行います。

2. 上記の指標に加えて、授業アンケートおよび学生への面談等による形成的評価等を行います。
3. 上記の評価に基づいてカリキュラムや指導方法等の点検を行い、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

■化学生命理工学科

化学生命理工学科では、化学や生命科学および境界領域に関する基礎力ならびに、専門的な知識と技能を身につけ、それらを社会へ還元できる人材を育成するため、下記のカリキュラムを編成しています。

【教育内容】

1. 社会人として必要な幅広い教養を身につけるために、大学での学び方や外国語、数理・データサイエンス・AI を統合した導入科目群や、生きる力を育み、視野を広げるための教養科目群を「共通教育科目」として配置します。
2. 化学と生命科学および境界領域に関する基礎を身につけるために「物理学概論」、「基礎有機化学」、「基礎物理化学」、「基礎無機化学」、「基礎分子生物学」、「基礎生化学」の全てを必修とします。
3. 専門実験に対応できる実験技術を確実に身につけるために「化学生命理工学実験Ⅰ」および「化学生命理工学実験Ⅱ」を必修とします。
4. 専門の文献を読むために必要となる英語力を身につけるため、「理工学英語ゼミナールⅠ」及び「理工学英語ゼミナールⅡ」を必修とします。
5. パソコンを用いて、①化学や分子生物学の情報検索を行うことができるようになるため、②解析ソフト・作図ソフトを活用することができるようになるため、「理工学情報処理演習」を必修とします。
6. 学生が3年次までに学修した内容を統合し、それをもって他者にはたらきかけることができるようになるために「理工学研究プロポーザル」、「研究セミナーⅠ」、「研究セミナーⅡ」、「卒業研究」を配置します。

【教育方法】

1. 学生の主体的な学びを促進するために、3年次の各種演習授業ではアクティブ・ラーニング型の授業スタイルとし、時間外学習を想定した授業設計を行います。
2. 「理工学研究プロポーザル」「理工学英語ゼミナールⅡ」では、学生のコミュニケーション力や協働実践力を養うため、教員からのフィードバック、学生間のピア評価などを取り入れます。
3. 学修ポートフォリオやそれに基づいた学生面談を年に複数回行い、学生の到達度を把握しつつ指導する体制をとります。

【教育評価】

1. GPA、「ディプロマ・ポリシーの到達度」、「学修成果の到達度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価します。
2. 最終学年では、学士力確認試験を行い、学士（理工学）として卒業するにふさわしい能力を身につけたかどうかを確認します。
3. 上記の指標に加えて、時期を定めて教員による学生面談や授業アンケートを実施し、形成的評価を行うことで学生の到達度を把握します。
4. 上記の評価に基づいてカリキュラムや指導方法等の点検を行い、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

■地球環境防災学科

地球環境防災学科では、地球環境と自然災害に関する基礎および専門知識と課題探求能力を身につけ、自然が関わる事象（環境・防災・減災・地域作り）に対して適切な課題設定のもと問題解決する能力を備えた人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

【教育内容】

地球環境防災学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、地球環境と自然災害に関する

基礎および専門知識と課題探求能力を身につけ、自然が関わる事象（環境・防災・減災・地域作り）に対して適切な課題設定のもと問題解決する能力を備えた学生を育成するため、学科基礎科目群と学科専攻科目群を配置しています。

〔共通教育科目〕

社会人として必要になる能力や幅広い教養を身につけるために導入科目や教養に関する科目を配置します。

〔学科基礎科目群〕

本科目群では、「物理学概論」を必修科目として配置することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる地球環境と自然災害に関する科目履修に向けた基礎知識を身につけ、より広範囲に及ぶ学際領域への関心を高めます。

また、実験科目のうち以下の科目を選択必修科目として配置するとともに、選択科目として、物理学、情報科学、地球惑星科学、およびそれらに関連する実験実習科目を履修することで、地球環境と自然災害に関する理工学的基礎を固めるとともに、幅広い視野と関心を育成します。

「基礎物理学実験」、「基礎地学実験」のうち1科目2単位以上を修得します。

〔学科専攻科目群〕

本科目群では、以下の科目を必修科目として配置することで、地球環境と自然災害に関する専門知識を育成します。

「地震学」、「地球環境防災実習」、「ケーススタディーⅠ」、「卒業研究」

また、以下の科目を選択必修科目として配置しています。

「地震地質学」、「構造地質学」、「岩石学」、「連続体力学」、「気象学」、「地球ダイナミクス」、「構造力学」、「地盤工学」、「水理学」から3科目6単位以上を修得します。

「地球物理学実験」、「実践野外調査実習」、「防災工学実験」から1科目2単位以上を修得します。

【教育方法】

1. 学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニング型の授業科目を置くとともに、時間外学習を想定した授業設計を行います。
2. 学修ポートフォリオを活用し、学生の到達度を把握しつつ授業を進める体制をとります。
3. 学科専攻科目群では、地球環境変動分野と防災工学分野の中から、科目選択を行うことで、地球環境と自然災害に関するより専門性の高い知識と応用力を修得します。
4. 「地球環境防災実習」や「ケーススタディー」では、主として小グループ編成で授業を展開することで、地球環境と自然災害に関する現状の理解、実験・観測・調査実習方法の修得、課題探求能力の向上を図ります。

【教育評価】

1. GPA、学修ポートフォリオ、授業アンケート、学生面談などの指標に基づいてカリキュラムの点検・評価を行います。
2. 上記に挙げた指標を適宜活用して、指導方法の点検を行います。
3. 上記のカリキュラムや指導方法等の点検・評価に基づいて、必要に応じてカリキュラムや指導方法等の改善を行います。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー）

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●理工学部

■数学物理学科

【養成する人物像】

数学物理学科は、「数学や物理学の専門的知識の修得を通じて理学の発展・活用に寄与し、またグローバル化する社会の中で自ら課題を発見し解決する能力を身に付けることで社会に貢献できる人材」を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

知識・技能

1. 高等学校卒業程度の教科学習に関する知識を有する。特に、専門的知識を習得するために必要な事項として、数学あるいは理科についての内容を十分に理解している。

思考力・判断力・表現力

1. 筋道を立てて物事をとらえることができる。
2. 知識・技能を活用して自ら課題を見出し、その解決に向けた探求心が旺盛である。
3. 自分が理解している事柄をわかりやすく説明することができる。

主体性・多様性・協働性

1. 問題に対し、自ら考えて解法を導くことができる。
2. 課題解決に向け、多様な人々と協力する意志を持っている。

関心・意欲

1. 数や図形、自然の現象等に関連する数学的な事柄に関心があり、理解を深めたり課題を解決したりする意欲がある。あるいは、自然の現象や法則に関心があり、実験等を通じて理解を深めたり課題を解決したりする意欲がある。
2. 基礎理学として数学又は物理学を学ぶ意欲がある。
3. 数学又は物理学を核として学びつつ、他の分野にも知見を広める意欲がある。
4. 科学と社会のあり方、科学と倫理のあり方について関心がある。

■情報科学科

【養成する人物像】

情報科学科では、情報科学、情報工学の「計算システム科学」「ソフトウェア科学」「数理情報学」分野に関する知識及び情報処理能力を涵養し、その学習を通して論理的思考力を身に付け、さらには高度情報化社会で活躍できる人材を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

知識・技能

1. 理工学を学ぶにあたって必要となる数学・理科・英語の基礎的事項に関して、高等学校卒業程度の知識があり理解している。
2. 情報科学の専門知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する事項の知識と理解及び技能を有する。

思考力・判断力・表現力

1. 知識・技能を活用して自ら課題を見出し、その解決に向けた探求心が旺盛である。
2. 物事の考え方や判断基準を科学的・論理的にとらえることが得意である。
3. 自分が理解している事柄をわかりやすく説明することができる。

主体性・多様性・協働性

1. 主体的に学習に取り組む習慣が身につけている。
2. さまざまな考え方を持つ人とコミュニケーションを取り、良好な協働ができる。

関心・意欲

1. コンピュータや情報通信技術、アルゴリズムやプログラミング等に関心がある。
2. 情報科学の広範な学問分野を学び、高度情報化社会で活躍する意欲がある。
3. 情報科学を核として学びつつ、数学や物理学にも知見を広める意欲がある。

■生物科学科

【養成する人物像】

生物科学科は、「地球生態系から分子レベルの現象を扱う生物科学（分類学、生態学、古生物学、比較生化学、細胞生物学、生理学、分子進化学の諸分野）についての専門的な知識と野外調査・室内実験の技術を修得し、生物及び生物圏の在り方をさまざまな視点から理解し、生物多様性の保全や自然環境教育などを通じて広く社会に貢献できる人材」を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

知識・技能

1. 理学を修得するために必要となる数学・理科・英語の基礎的事項に関して、高等学校卒業程度の知識を有する。
2. 生物科学の専門知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識があり理解している。

思考力・判断力・表現力

1. 知識・技能を活用して自ら課題を見出し、その解決に向けた探求心が旺盛である。
2. 物事の考え方や判断基準を科学的・論理的にとらえることが得意である。
3. 自分が理解している事柄をわかりやすく説明することができる。
4. 事実を客観的にとらえ、合理的な思考により判断できる。

主体性・多様性・協働性

1. 科学に関する活動等で自然に親しみ、多様な人々と社会の課題解決に取り組むことができる。
2. 実験や演習等に積極的に取り組むことができる。

関心・意欲

1. 生物科学のさまざまな分野に興味・関心がある。
2. 自然法則や科学者・科学技術者の守るべき倫理、あるいは応用的な科学を学ぶことに興味・関心がある。

■化学生命理工学科

【養成する人物像】

化学生命理工学科では、化学反応の仕組み、物質の性質や機能、細胞でおこる生命現象の仕組みを分子や原子レベルで理解するための基礎的な知識と技術を身につけます。それらを土台として、化学と生命科学分野の基礎科学研究及び環境、エネルギー、材料科学、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー等に関連する応用研究に取り組むことで、社会で生じるさまざまな問題の解決へとつながる革新的な発見や発展に貢献できる研究者・技術者を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

知識・技能

1. 理工学を学ぶために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識を有する。
2. 化学や生命科学の専門知識を修得するために必要となる理科・数学・英語の基礎的事項に関して、高等学校卒業程度の知識・技能を身につけ、理解している。

思考力・判断力・表現力

1. 知識・技能を活用して自ら問題点を見出し、原因の探求、解決に向けた課題設定ができる。
2. 自然現象や身近な現象を科学的に考えることができる。
3. 物事を筋道立てて考えたり、明確な基準や理由をもって判断したりすることが得意である。
4. 自分が理解している事柄を他者にわかりやすく説明することができる。

主体性・多様性・協働性

1. 自己の向上及び自身に関わるさまざまな活動の活性化のために、自ら学び、行動できる。

<p>2. 持続可能な社会を実現するためのさまざまな課題に目を向け、化学や生命科学の領域から主体的に課題に取り組むことができる。</p> <p>3. 多様な人々と協働して、学んだり、さまざまな課題に取り組んだりすることができる。</p> <p>関心・意欲</p> <p>1. 科学が好きで、特に化学反応や生命現象に強い関心がある。</p> <p>2. 化学や生命科学の分野で、新たな法則や原理を発見したり、新たな技術、材料等を開発したりする意欲がある。</p> <p>■地球環境防災学科</p> <p>【養成する人物像】</p> <p>地球環境防災学科では、地球を作っている物質の特性、自然現象や災害が起こる仕組み、災害から命や暮らしを守る方法について教育・研究を行い、自然共生型社会の構築・発展に貢献できる人材を養成します。</p> <p>【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】</p> <p>知識・技能</p> <p>1. 理工学を学ぶにあたって必要となる数学・理科・英語の基礎的事項に関して、高等学校卒業程度の知識を有する。</p> <p>2. 地球の成り立ち、自然現象の発生機構、防災の専門知識を修得するために必要な基礎的事項を理解している。</p> <p>3. 実験や実習等に積極的に取り組むための知識や技能を有する。</p> <p>思考力・判断力・表現力</p> <p>1. 知識・技能を活用して自ら課題を見出し、その解決に向けた探求心が旺盛である。</p> <p>2. 物事の考え方や判断基準を科学的・論理的にとらえることが得意である。</p> <p>3. 自分が理解している事柄をわかりやすく説明することができる。</p> <p>主体性・多様性・協働性</p> <p>1. 自然法則や科学者・技術者の守るべき倫理、あるいは応用的な科学を主体的に学ぶことができる。</p> <p>2. 科学に関する活動等で自然に親しみ、多様な人々と社会の課題解決に取り組むことができる。</p> <p>関心・意欲</p> <p>1. 自然との共生や国土の望ましい姿を模索・創造するための広い視野と柔軟な思考力を身に付ける意欲がある。</p>

<p>学部等名 医学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的) https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/faculty-objectives/</p>
<p>(概要)</p> <p>●医学部 人間性豊かであり、地域医療に貢献する強い意志、多様な社会の要請に応えうる高い倫理観、使命感及び思考の柔軟性を有する医療人を育成することを目的とする。</p> <p>・医学科 高い倫理観を持ち、人間性豊かで、高度の知識・技能を身に付けた臨床医及び医学研究者を育成する。</p> <p>・看護学科 地域に暮らす人々の健康状態と生活・環境との関係を理解し、個人の主体性や価値観を</p>

尊重する看護実践者及び看護学研究者を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●医学科 ディプロマ・ポリシー

前身である高知医科大学の「敬天愛人」と「真理の探究」という建学の精神を受け継ぎ、人間性豊かで、医の倫理と高度な知識・技能を身につけ、地域と時代の要請に柔軟に対応できる医師となることをめざします。()内は、医学科卒業時の達成指針の該当項目を示す。

【対課題】

[専門分野に関する知識]

1. 基礎医学、臨床医学および社会医学に関する知識を修得している。(Ⅲ-2)
2. 医療チームの一員としての役割を果たすための基本的診療能力を修得している。(Ⅲ-3)
3. 地域の医療と公衆衛生の実際を経験し、より実践的な知識を修得している。(Ⅳ-1)

[人類の文化・社会・自然に関する知識]

1. 医療に携わるための基盤となる、生命倫理、行動科学を含む文化、社会、自然に関する幅広い教養を身につけている。(Ⅲ-1)

[論理的思考力]

1. 基礎医学、臨床医学および社会医学の知識を水平的、垂直的に統合して応用できる。(Ⅴ-1)
2. 科学的根拠に基づき、分析的、批判的に思考できる。(Ⅴ-2)

[課題探求力]

1. 学修の場および医療現場で自ら探究すべき課題を見つけることができる。(Ⅴ-3)
2. 国際的健康や医療の観点を持って、地域の医療と公衆衛生の課題を見出すことができる。(Ⅳ-2)

[語学・情報に関するリテラシー]

1. ICT(Information and Communication Technology)・AI(Artificial Intelligence)の課題を認識し、倫理的に正しく使うことができる。(Ⅰ-5)
2. 英語でのコミュニケーションを実践できる。(Ⅱ-4)

【対人】

[表現力]

1. 探究すべき課題とそれに対する取り組みを、論理的かつ明確に表現することで社会に貢献することができる。(Ⅴ-4)

〔コミュニケーション力〕

1. 患者および家族の話を傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、個人の社会的背景に配慮したコミュニケーションを実践できる。（Ⅱ-1）
2. 医療チームの一員として、情報収集、伝達、教育などのコミュニケーションを実践できる。（Ⅱ-2）
3. 学生、教職員と円滑なコミュニケーションを実践できる。（Ⅱ-3）

〔協働実践力〕

1. 医療チームの一員として、相互の信頼関係を構築し、安全な医療を提供するための基礎を実践できる。（Ⅱ-2）
2. 仲間とともに学修を進めることができる。（Ⅱ-3）

【対自己】

〔自律力〕

1. 医療関連法に則り行動することができる。（Ⅰ-1）
2. 医療安全に配慮して行動することができる。（Ⅰ-2）

〔倫理観〕

1. 医療倫理・研究倫理の原則に従って行動することができる。（Ⅰ-3）
2. 医師のプロフェッショナリズムを認識し、常に実践し続けることができる。（Ⅰ-4）

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 学修の場および医療現場における課題の解決に向けて取り組むことができる。（Ⅴ-3）
2. 地域の医療と公衆衛生の課題を把握し、解決に向けた方策を提案し、地域に貢献することができる。（Ⅳ-3）

●看護学科 ディプロマ・ポリシー

■看護学コース

【対課題】

- ・看護の基盤となる幅広い教養を身につけている。
- ・看護に必要な基本的な知識を体系的に修得している。
- ・人々の健康や生活でおこる様々な問題を看護の視点で捉えることができる。
- ・看護の専門知識を用いて、問題解決に向けての解釈・判断ができる。

〔専門分野に関する知識〕

1. 人間を全人的に捉え、医療・看護の観点から人の健康を総合的に理解し、個別の事例について説明することができる。
2. 看護の実践においてその科学的・社会的根拠を理解し、説明することができる。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 人を取り巻く環境と、健康との関連を説明することができる。
2. 保健医療福祉制度における看護の社会的役割・機能・連携について理解し、説明することができる。

〔論理的思考力〕

1. 創造性を発揮し、科学的・社会的根拠に基づいた看護を思考できる。
2. 看護の対象となる人々の背景を分析することができる。

〔課題探求力〕

1. 主体的に課題を発見し、解決に向けた提案を行うことができる。
2. 社会の動向をふまえて看護の役割や課題を追究することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 必要な情報を収集、整理し、活用することができる。
2. 看護学を学ぶ上で必要となる基本的な英語を修得している。
3. 数理・データサイエンス・A I (Artificial Intelligence) を適切に理解し、活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

- ・対象者や場に応じた基本的な看護実践能力を身につけ、使うことができる。
- ・個々の特性をつかみながら、チームを統合することができる。

〔表現力〕

1. 実施する看護の方法について看護の対象となる人々に合わせた説明ができる。
2. チームの中でメンバーの考えを受容しつつ、積極的に自身の考えを伝えることができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 看護の対象となる人々と相互関係を形成し、援助的なコミュニケーションを展開できる。
2. 看護の対象となる人々の多様な価値観を尊重し、思いやりをもって真摯に接することができる。

〔協働実践力〕

1. チーム医療において多職種との協働・連携の重要性を理解し、看護師に求められる役割について説明することができる。
2. ヘルスケアチームメンバーとの協力関係を築き、健康上の諸課題への対応に参画し、看護ケアを実践することができる。

【対自己】

- ・人間・環境・健康・看護に関心を持ち、知的好奇心を高めることができる。
- ・医療・保健・教育の進歩に対応できるよう、自律して学び続ける姿勢を身につけている。

〔自律力〕

1. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる努力ができる。
2. 対象者やチームに対して、責任ある行動がとれる。

〔倫理観〕

1. 生命倫理・看護倫理・職業倫理について理解し、専門職として倫理綱領に基づいた行動がとれる。
2. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を尊重した行動がとれる。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 看護の目標を達成するために必要な資源を利用し、多職種と協働して活動することができる。
2. 看護の対象となる人の状況・背景に応じて、看護実践が展開できる。
3. 看護実践を通じて自己の看護観を形成することができる。

■公衆衛生看護学コース

【対課題】

- ・看護及び公衆衛生看護の基盤となる幅広い教養を身につけている。
- ・看護及び公衆衛生看護に必要な基本的な知識を体系的に修得している。
- ・人々の健康や生活でおこる様々な問題を看護及び公衆衛生看護の視点で捉えることができる。
- ・看護及び公衆衛生看護の専門知識を用いて、問題解決に向けての解釈・判断ができる。

〔専門分野に関する知識〕

1. 人間を全人的に捉え、医療・看護及び公衆衛生看護の観点から人の健康を総合的に理解し、個別の事例について説明することができる。
2. 看護及び公衆衛生看護の実践においてその科学的・社会的根拠を理解し、説明することができる。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 人を取り巻く環境と、健康との関連を説明することができる。
2. 保健医療福祉制度における看護及び公衆衛生看護の社会的役割・機能・連携について理解し、説明することができる。

〔論理的思考力〕

1. 創造性を発揮し、科学的・社会的根拠に基づいた看護及び公衆衛生看護を思考できる。
2. 看護及び公衆衛生看護の対象となる人々の背景を分析することができる。

〔課題探求力〕

1. 主体的に課題を発見し、解決に向けた提案を行うことができる。
2. 社会の動向をふまえて看護及び公衆衛生看護の役割や課題を追究することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 必要な情報を収集、整理し、活用することができる。
2. 看護学及び公衆衛生看護学を学ぶ上で必要となる基本的な英語を修得している。
3. 数理・データサイエンス・A I (Artificial Intelligence) を適切に理解し、活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

- ・対象者や場に応じた基本的な看護実践能力を身につけ、使うことができる。
- ・個々の特性をつかみながら、チームを統合することができる。

〔表現力〕

1. 実施する看護及び公衆衛生看護の方法について看護及び公衆衛生看護の対象となる人々に合わせた説明ができる。
2. チームの中でメンバーの考えを受容しつつ、積極的に自身の考えを伝えることができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 看護及び公衆衛生看護の対象となる人々と相互関係を形成し、援助的なコミュニケーションを展開できる。
2. 看護及び公衆衛生看護の対象となる人々の多様な価値観を尊重し、思いやりをもって真摯に接することができる。

〔協働実践力〕

1. チーム医療において多職種との協働・連携の重要性を理解し、看護師及び保健師に

求められる役割について説明することができる。

2. ヘルスケアチームメンバーとの協力関係を築き、健康上の諸課題への対応に参画し、看護ケア及び公衆衛生看護活動を実践することができる。

【対自己】

- ・人間・環境・健康・看護に関心を持ち、知的好奇心を高めることができる。
- ・医療・保健の進歩に対応できるよう、自律して学び続ける姿勢を身につけている。

〔自律力〕

1. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる努力ができる。
2. 対象者やチームに対して、責任ある行動がとれる。

〔倫理観〕

1. 生命倫理・看護倫理・職業倫理について理解し、専門職として倫理綱領に基づいた行動がとれる。
2. 看護及び公衆衛生看護の対象となる人々の尊厳と権利を尊重した行動がとれる。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 看護及び公衆衛生看護の目標を達成するために必要な資源を利用し、多職種と協働して活動することができる。
2. 看護及び公衆衛生看護の対象となる人の状況・背景に応じて、看護実践が展開できる。
3. 看護実践を通じて自己の看護観を形成することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●医学科 カリキュラム・ポリシー

【教育内容・教育方法】

I. 医の倫理とプロフェッショナルリズム

法令、規則を遵守し、安心、安全な医療を提供し、臨床倫理・研究倫理を尊重する人間性豊かな医療人になるために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 医療現場で必要となる医療関連法について教育を行う。
2. 初年次から継続的な医療安全教育を行う。
3. 継続的な医療倫理と研究倫理の教育を行う。
4. 医師としての高い倫理観を養うプロフェッショナルリズム教育を行う。
5. ICT (Information and Communication Technology) や AI (Artificial Intelligence) の課題を認識し倫理的に正しく扱える能力を養う。

II. コミュニケーション

患者・家族、協働する医療スタッフおよびさまざまな医療資源と協調して、満足度の高い医療を提供する医師になるために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 1年次から継続的な医療コミュニケーション能力を養う。
2. 臨床現場での実習を通して、多職種と協働できる医療コミュニケーション能力を養う。

3. チーム基盤型学修（TBL：Team-Based Learning）など問題解決型の能動的学修法を採用し、学生や教員と円滑なコミュニケーション能力を養う。
4. 国際的なコミュニケーションに必要な英語力を養う。

III. 医学の知識と技能

発展し続ける知識や医療技術の根源（人、生命の尊厳）を理解し、信頼される医師としてのスタートを切るために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 教養科目群および生命倫理、行動科学を含む導入科目群を通じて、人類の文化・社会・自然に関する知識を教育する。
2. 1年次から専門科目を導入し、基礎医学、臨床医学、社会医学に関する幅広い知識を教育する。
3. 基本的診療技能の学修を通じて、診療参加型臨床実習に向けての基礎を養う。
4. 診療参加型臨床実習を通じて、より実践的な診療能力を養う。

IV. 地域における医療と公衆衛生の実践

ローカルからグローバル、公衆衛生から医療までの関係性を理解し、全ての医療スタッフの立場を尊重して課題を解決する医師になるために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 初年次の早期医学体験（EME：Early Medical Exposure）に始まり、段階的に地域医療の現場を体験し、地域医療関連授業および診療参加型臨床実習を通じて、地域医療への関心を育む。
2. 国際的健康や医療の観点を持って、地域の医療と公衆衛生の課題を見出す能力を養う。
3. 医療と公衆衛生の課題を解析し、解決に向けた方策を提案し、地域に貢献する姿勢を育む。

V. 真理の探究

探究すべき課題に意欲や関心を示し、論理的・統合的に解決する能力を身に着けた医師になるために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 基礎医学、臨床医学、社会医学を水平的および垂直的に統合する力を養い、科学的根拠に基づき、分析的、批判的思考力を身につける。
2. 基礎医学科目の実習、先端医療学コースやリサーチコースを通じて、自ら探究すべき課題を見つけ、解決に向けて取り組む姿勢を育む。
3. 基礎医学、臨床医学、社会医学の統合的学修を通じて、自らの考えを論理的かつ明確に表現し、議論する能力を養う。

【教育評価】

1. 学年末における科目毎の単位認定、参加型臨床実習前に行われる全国共通の医療系大学間共用試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination)、CBT (Computer-Based Testing) および卒業試験等の指標に基づいて総括的評価を行う。
2. GPA(Grade Point Average)、能動的学習のピア評価、個人面談、臨床実習現場などで形成的評価を行い、細やかな指導に務める。
3. 医学教育 IR 室の分析に基づき、カリキュラムの評価を行う。

●看護学科 カリキュラム・ポリシー

看護学科のカリキュラムは、看護の基盤となる幅広い教養や豊かな人間性と倫理観に基づき、専門的な知識や技術を統合し、多様な価値観を持つあらゆる健康レベルの対象者に対して臨床判断を行い、看護を実践できる能力を身につけることを目指します。

カリキュラムは、系統的に学修が出来るようカリキュラム全体の構造を学問領域でグルーピングした複数の「系」で表現し、医療基盤系、看護関連の専門知識・技術を修得する

ための基礎看護学系・地域在宅看護学系・臨床看護学系・統合看護学系、国際的な視野と知識を修得するための国際看護学系で構成されています。また、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な公衆衛生看護学系及び養護教諭一種免許状を取得するために必要な学校保健学系があります。

【教育内容】

1. **医療基盤系**は、社会人と医療人の基盤となる豊かな人間性と倫理感性を育み、問題解決が必要な場面で根拠に基づき取り組む能力を育成するために、全学の共通教育科目である導入科目群と教養科目群で構成されています。
2. **基礎看護学系**では、健康レベルの理解と健康支援に必要な社会制度、看護の原理となる知識や生活支援に必要な基礎的な技術を体系的に学ぶ科目を配置しています。
3. **地域在宅看護学系**では、地域で生活する人々の健康の保持増進を目的として、生活を支えるために必要な看護の知識と技術を学ぶ科目で構成し、在宅看護学などの科目を配置しています。
4. **臨床看護学系**では、生命の誕生から死に至るライフサイクルに応じて必要な看護の知識と技術を学ぶ科目で構成し、成人看護学、高齢者看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の科目を配置しています。
5. **国際看護学系**では、多様な文化を理解し、グローバルな視点で国際的な看護活動ができるように、外国語や国際活動に関する科目を配置しています。
6. **統合看護学系**では、各科目系の学びを統合した高度な専門性をもって、医療チームの一員としての役割発揮ができるよう、統合看護分野の科目を配置しています。また、看護研究、卒業研究、災害看護、英語文献にふれる科目を配置しています。
7. 公衆衛生看護学コースでは、上記1～6に加えて、**公衆衛生看護学系**として、社会の多様な健康課題に対応できる保健師の育成を目指し、保健師国家試験受験資格取得に必要な科目を配置しています。
8. 看護学コースでは、上記1～6に加えて、**学校保健学系**として、学校教育及び児童生徒理解を基盤とした健康課題についての知識と技術を学び、養護教諭一種免許状取得に必要な科目を配置しています。

【教育方法】

1. 主体的に学ぶ力と協働力を高めるために、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施します。
2. キャリア形成する力を自ら養うため、2年次終了時に学生個々のニーズに合わせて、看護師になるためのコース（看護学コース）、看護師に加え保健師になるためのコース（公衆衛生看護学コース：選抜あり）を選択し、3年次からいずれかのコースに所属します。
3. 教育内容に示した8つの系の各学問領域について、4年間を通して看護専門職としての基礎的能力の育成を重視した教育方法を展開します。
1年次より、グループで協力して課題に取り組む機会を多く持ち、附属病院外来や病棟で患者に接する授業や看護の基礎技術を学ぶ講義・演習を実施します。両コースともに、2年次、3年次では看護の専門的な知識の学修と技術の習得を行い、さらに臨地の看護実習で実践能力を身につけます。4年次の統合看護実習では、対象者の健康上の問題解決・課題達成に向け、既習の技術・知識を統合しながら多重課題に取り組み、実践する力を身につけます。さらに、看護マネジメントの実際を理解し、医療チームの一員として果たすべき役割について考察します。また、看護研究を通して課題探求に取り組み、専門職としての知識の蓄積と探求を行う方法を身につけます。
4. 1年次から地域と附属病院での臨地の実習を配置し、多様性と複雑性に対応し、多職種と連携した実践力の育成を行います。小グループ編成で展開し、チーム内の協働・連携の重要性を実践的に理解できるように進めます。個別目標の設定等自主的な取り組みを行い、指導教員及び臨地指導者から、看護ケアの場面で助言を受けながら学修を深めます。

【教育評価】

1. 1年次、3年次にディプロマ・ポリシーの到達度評価の一環として外部アセスメントを実施し、社会で求められる「協働する力」、「自己管理能力」及び「批判的思考力」などの力を評価します。
2. 学年末における科目ごとの単位認定や、学生の学業成績を評価する方法の1つとして、GPA (Grade Point Average) を用います。
3. 本学は、学生に身につけてほしい能力である「10+1の能力」を定めています。学生はこの能力についてセルフアセスメントを行います。「対人：他者との関係性を築く力」、「対自己：自己をコントロールする力」、「対課題：課題を解決する力」の3つのカテゴリーに分類された10の能力と、これらの能力を発揮して、周囲の人や社会に働きかける力「統合・働きかけ」で構成されています。
4. 上記の外部アセスメントや学生のセルフアセスメント、授業アンケート及び学生の面接等の結果に基づいて、カリキュラムを評価・改善します。
5. 学生の学びの満足度を把握するための「前年度看護学教育についての評価アンケート」を年度初めに各学年に対し実施し、教育改善の状況を評価します。
6. 「成績評価分布の状況と分析」を定期的実施し、成績分布の妥当について検討します。
7. 卒業時調査を実施し、ディプロマ・ポリシーの到達度評価とします。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●医学科 アドミッション・ポリシー

【養成する人物像】

医学科は、「医師としての倫理観を持ち、良識のある社会人として行動する力」、「コミュニケーション力」、「医学に関する幅広い知識と技能」、「地域の医療へ貢献する力」及び「自ら真理の探求に取り組む力」を有する人材を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

知識・技能

1. 医学知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識があり理解している。

思考力・判断力・表現力

1. 学習及び生活の中で自ら積極的に問題点をみつけ、解決方法を探求することができる。
2. 科学的根拠に基づいて問題を分析的、批判的に考え、解決することができる。
3. 自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて筋道を立てて明確に表現することができる。

主体性・多様性・協働性

1. 自発的で継続的な自己学習の習慣を身につけている。
2. 協調性や他者への深い思いやりがあり、周囲と良好なコミュニケーションをとることができる。
3. 多様な背景を持つ他者の能力を認め、同じ目標に向かって協働することができる。

関心・意欲

1. 生命科学や医学・医療に対する強い関心・意欲を持っている。
2. 高知県内の地域医療に従事する強い意欲がある。(一般選抜 [地域枠 (大学独自枠)]、学校推薦型選抜Ⅱ、総合型選抜Ⅰ)
3. 社会的な善悪に対して正しく判断し、自分の発言や行動に責任を持つことができる。

●看護学科 アドミッション・ポリシー

【養成する人物像】

看護学科は、「教養と専門知識を基盤に、人々のところに寄り添う感性と高い社会正義感を持って、看護実践能力を用いて、人々の健康と生活を支えることができる看護専門職」を養成します。同時に、「社会に生じてくるさまざまな問題を看護の視点でとらえ、多職種と協働しながら課題の解決に向かうよう自ら学びつづけ、よりよい医療・看護を実現できる革新力を備えた人材」の養成を目指します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

知識・技能

1. 看護学・医学を学ぶために必要な高等学校卒業程度の知識があり、特に理科・社会・英語の基礎学力を有する。

思考力・判断力・表現力

1. 筋道を立てて物事を考え、的確な判断ができる。
2. 自分の考えや思いをわかりやすく伝えることができる。

主体性・多様性・協働性

1. 他の人と協働しながら、主体的に取り組むことができる。
2. 自ら学び、挑戦することができる。
3. 相手の立場に敬意を払い、関心を持って他の人の話を聞くことができる。

関心・意欲

1. 人と触れ合うことが好きであり、人々の健康と生活を支える専門職を目指す意欲がある。

学部等名 農林海洋科学部

教育研究上の目的

(公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/faculty-objectives/>

(概要)

●農林海洋科学部

農林資源・海洋資源の有効活用による持続的社会の創造を志し、農学・海洋科学に関わるデータサイエンスやデジタルトランスフォーメーションの知識を持ち、農林資源・海洋資源の持続的開発・利用や環境保全等の諸課題に対応できる豊かな知識と技能、実践力を併せ持った人材を育成する。

(1) 農林資源科学科

農林資源の有効活用による持続的社会の創造を志し、俯瞰的に問題を分析し、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握し、実際に行動し解決できる能力を有するとともに、農林業に関わるフィールド科学又は農芸化学に関する専門的な知識並びに農林業に関わるデータサイエンスやデジタルトランスフォーメーションの知識を併せ持った持続的資源開発・利用、環境保全等の諸課題や6次産業化に対応できる実践力のある専門人材を育成する。

(2) 海洋資源科学科

海洋資源の有効活用による持続的社会の創造を志し、俯瞰的に問題を分析し、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握し、実際に行動し解決できる能力を有するとともに、海洋生物生産、海底資源環境又は海洋生命科学に関する専門的な知識並びに海洋科学に関するデータサイエンスやデジタルトランスフォーメーションの知識を持ち、海洋資源

管理の諸課題に対応できる技能と実践力を併せ持った海洋専門人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

【知識・理解】

農林海洋科学に関する自己の専門分野及び一次産業のDXについての知識や技能を修得するとともに、データサイエンスの重要性を深く理解し、自己の分野と他分野を結びつけ、地域社会や国際社会が抱える食料・資源・環境問題や一次産業の発展に資する知識や技能を修得し、幅広い視点から地域・国際社会に貢献できる。

【思考・判断】

自己の知識により、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握・分析し、課題の本質を正確に把握・分析し、自身の専門分野のみならず、関連する他分野とも連携し、それらの知識や技能を取り入れながら、好奇心を持って課題解決に取り組むことができる。

【技能・表現】

卒業論文研究の内容を的確な分析手法で解析し、明確に発表でき、他者の発表内容についても関心を持ち、積極的に議論に参加できる。

【関心・意欲・態度】

一次産業のDXやスマート化、食料問題や環境保全に高い関心を持ち、専門分野の知識を深く理解した上で、周辺分野と協働することで、課題解決に高い意欲をもって取り組むことができる。豊かな俯瞰力・企画力・探求力・分析力を持つ高度人材として、社会に対して負うべき責任を理解する健全な倫理観・自然観と幅広い視野を持ち、地域社会や国際社会における食料・資源・環境問題の解決や一次産業の発展に向けて行動することができる。

【統合・働きかけ】

農学・海洋科学に関わる技術者・研究者として、持続可能な生産に向けた提案をすることができる。農林海洋資源の持続的開発・利用や環境保全について、関係する人々と協力して改善していくことができる。

■農林資源科学科

【知識・理解】

農学に関する自己の専門分野及び一次産業のDXについて最先端の知識や技能を修得するとともに、データサイエンスを深く理解し、自己の分野と他分野を関連づけ、地域社会や国際社会の先端的生物生産・利用、環境保全や地域産業の発展に資する知識や技能を修得し、幅広い視点から地域・国際社会に貢献できる。

【思考・判断】

自己の知識により、データに対する論理的考察により問題の本質を把握・分析・判断し、自身の専門分野のみならず、関連する他分野の知識や技能を有機的に取り入れながら、好奇心を持って課題解決に取り組むことができる。

【技能・表現】

卒業論文研究の内容をデータサイエンスなどの手法で解析し、科学的に明瞭に発表できるうえ、他者の発表内容についても関心を持ち、積極的に議論に参加できる。

【関心・意欲・態度】

農林業のDXや生物生産・利用のスマート化、食料・資源・環境問題の解決や地域産業の発展に高い関心を持ち、専門分野の知識を深く理解した上で、関連学問分野を活用すること

で、課題解決に高い意欲をもって取り組むことができる。豊かな俯瞰力・高い企画力・深い探求力・鋭い分析力を持つ高度な人材として、社会に対して負うべき責任を理解する健全な倫理観・自然観を持ち、地域社会や国際社会における農林業のDXや先端的生物生産・利用・環境保全の発展に向けて行動することができる。

【統合・働きかけ】

農業・林業及び農芸化学に関わる技術者・研究者として、持続可能な生産・6次産業化に向けた提案をすることができる。農業・林業の生産環境の整備とその利用並びに生物生産物の利用について、関係する人々と協力して改善していくことができる。

■海洋資源科学科

【知識・理解】

「海洋資源」の問題について、多面的な視点から理解することができる知識と技術を有している。海洋資源管理に不可欠な知識や手法を身に付けている。またデータサイエンスに関わる基礎的知識を持ち、それぞれの専門分野の知識との融合を通じて、地域社会や国際社会の持続的発展に貢献できる。

【思考・判断】

海洋資源の有効活用による持続的社会的創造を志し、「海洋資源」及び「海洋資源管理」に関する諸問題を俯瞰的に分析しながら、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握し、実際に行動し課題解決に取り組むことができる。

【技能・表現】

日本語による表現力、英語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を修得しており、他者に分かり易く伝えることができる。異なる意見にも配慮した問題解決に必要な能力として、合意形成に関する知識を活用できる技術を有している。得られたデータを効率的に集約し解析するためのデータサイエンスに関する技術を修得しており、「海洋資源」に関して生物学、化学、地学、物理学の分野から多面的にみることができ、それらを題材とし実験・実習・課題研究等を通して、問題発見、計画の立案、成果を提示することができる。

【関心・意欲・態度】

「海洋資源」及び「海洋資源管理」に関する理解と利用について強い関心と意欲を持っている。また海洋科学のDXに高い関心を持ち、専門分野の知識を深く理解した上で、関連学問分野を活用することで、課題解決に高い意欲をもって取り組むことができる。地域社会及び国際社会のなかでの技術者や研究者の責任と役割を自覚し、積極的に行動できる。

【統合・働きかけ】

海洋資源科学に関わる技術者・研究者として、持続可能な生産に向けた提案をすることができる。海洋資源及び海洋資源管理について、関係する人々と協力して改善していくことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー))

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●農林海洋科学部

教育課程は、ディプロマ・ポリシーへの到達を目的に、1年次の「課題探求実践セミナー(フィールドサイエンス実習)」(共通教育科目)により農林海洋科学部の諸分野の内容や魅力を伝えた上で、学部共通科目及び学科共通科目の「DS・DX科目」や、学科・コース独自の専門分野の講義・実験・実習科目からなるさまざまな「専門科目」、「卒論科目」などで編成する。

【教育方法】

○DS・DX科目

学部共通科目及び学科共通科目の「DS・DX 科目」を受講させ、データサイエンスや一次産業の DX に必要な知識を修得させる。

○専門科目

農林海洋科学諸分野の専門科目を受講させる。両学科ともにコース横断的な受講が可能であり、専門性を高めるとともに幅広い知識を習得できる。

○必修の専門科目である「卒業論文」において、研究者倫理に関する授業を実施し、高い倫理意識のもとに、他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【教育プログラム】

学部プログラムとして、「SUIJI」（共通教育）及び「農山漁村地域連携教育」の2つのプログラムを設置し、国際的・地域的視野とフィールドワーク能力を涵養する。学科プログラムとして、農林資源科学科では「次世代農業教育プログラム」を、海洋資源科学科では「総合的海洋管理教育プログラム」を設け、専門領域の知識・技術の深化を図る。

【学修評価とカリキュラム評価】

学修は、試験や演習・実験・実習等の成績により評価する。学生や卒業生へのアンケート結果を参照しつつ、カリキュラム評価を実施し、改善を行う。

■農林資源科学科

本学科では、情報処理・統計学をベースとした農学系 DX 教育を基盤教育の一部とした上で農学における生物系が中心であるフィールド科学及び化学系が中心である農芸化学の専門知識を教授する。これと同時に両者を融合する必修科目を設置することで学科全体に一次産業 DX に即応できるカリキュラムを実践し、さらに「次世代農業教育プログラム」によりこれを深化する。

【教育内容】

教育課程は、ディプロマ・ポリシーへの到達を目的に、データ教育を行う学科共通の「DS・DX 科目」、専門分野の講義・実験・実習科目からなるさまざまな専門科目、キャリア形成のための「キャリア形成科目」などで編成する。

【教育方法】

○DS・DX 科目

学科全体としてデータサイエンスと一次産業の DX に必要な知識を修得できる。

○学科共通科目

両コース横断的な受講が可能であり、専門性を高めるとともに幅広い知識を修得できる。

○専門科目

農林資源科学の諸分野の専門科目を受講させることにより、専門性を高めるとともに幅広い知識を修得できる。

○経営・マーケティング科目

農業経営やマーケティング分野の専門科目を受講させることにより、農林生産物の6次産業化のための基盤的知識を修得できる。

○キャリア形成科目

高知県内の試験研究機関、農業協同組合(JA)、篤農家や農業法人等の実務者を講師とするキャリア形成科目により学生の興味・関心を引き出すとともに、「インターンシップ(技術・技能)」と「インターンシップ(実践力)」にて現場力を涵養する。

【教育プログラム】

学科プログラムとして「次世代農業教育プログラム」を設定し、一次産業 DX 教育で得られた専門領域の知識・技術の深化を図る。

【学修評価とカリキュラム評価】

学修は、試験や演習・実験・実習等の成績により評価する。在学生や修了生へのアンケート結果を参照しつつ、カリキュラム評価を実施し、改善を行う。

■海洋資源科学科

本学科では、「海洋生物生産学」、「海底資源環境学」、「海洋生命科学」の3コースを設置し、天然資源の維持管理・有効利用に関連して3コースが有機的に連携・機能すること

で、多様化・複雑化する諸課題の解決に対応でき、地域社会や国際社会で活躍できる「海洋専門人材」の育成を目指し、ディプロマ・ポリシーを設定している。このディプロマ・ポリシー達成のため、カリキュラムを次の方針により編成し実施する。

【教育内容】

教育課程は、ディプロマ・ポリシーへの到達を目的に、学科共通科目と各コース専門科目をおく。学科共通科目は、総合的海洋管理について学ぶ「ICOM（総合的海洋管理教育プログラム）科目」、「学科共通科目」で編成し、「ICOM 科目」は、「基盤科目」と「応用科目」に区分する。また、両科目中にデータサイエンス教育を行う「DS・DX 関連科目」を配置する。各コース専門科目は、各コースの専門分野の講義・実験・実習科目から編成され、さらに各コースの科目のもと、応用科目、発展科目を配置する。

【教育方法】

○総合的海洋管理（ICOM）教育プログラム科目

データサイエンスや一次産業 DX を含む総合的海洋管理のための知識・技能及び一次産業を含む海洋科学分野の DX に必要なデータサイエンスの知識を修得させる。基盤科目、基盤科目（DS・DX 関連科目）、応用科目、応用科目（DS・DX 関連科目）に区分する。

○共通科目

コース横断的な受講が可能であり、専門性を高めるとともに幅広い知識を修得できる。基盤科目と応用科目に区分する。

○コース別専門科目

学科共通の基盤科目と応用科目により専門性の向上及び幅広い知識を修得する。それを経て、各コースの応用科目と発展科目を受講させる。

○卒業論文

必修の専門科目である「卒業論文」において、他者とのコミュニケーション能力を涵養するとともに、研究者倫理を教授し、高い倫理観を育成する。

【教育プログラム】

学科プログラムとして、「総合的海洋管理教育プログラム」を設定し、“海洋資源”及び“海洋環境”をキーワードとした分野横断的な教育を実施することで、海を「知り、使い、そして護る」ために、生物・非生物を含めた「海洋資源」を様々な側面から扱うことのできる人材育成を行う。

【学修評価とカリキュラム評価】

学修は、試験や演習・実験・実習等の成績により評価する。在学生や卒業生へのアンケート結果を参照しつつ、カリキュラム評価を実施し、改善を行う。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：高知大学ウェブサイト（教育に関するポリシー）

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

（概要）

●農林資源科学科

【養成する人物像】

農林資源の有効活用による持続的社会的創造を志し、俯瞰的に問題を分析し、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握し、実際に行動し解決できる能力を有するとともに、農林業に関わるフィールド科学または農芸化学に関する専門的な知識、並びに農林業に関わるデータサイエンスや DX の知識を併せもった持続的資源開発・利用、環境保全等の諸課題や6次産業化に対応できる実践力のある専門人材を育成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

【知識・技能】

1. 農学分野の専門知識と技能修得や一次産業の DX に資するデータサイエンスに関する専門的な知識を修得するために必要となる、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識・技能を有する。

【思考力・判断力・表現力】

1. 物事を客観的にとらえることができる。
2. 得られた知識及びデータに基づいて科学的・論理的思考ができる。
3. 言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現することができる。

【主体性・多様性・協働性】

1. さまざまな人と意見交換ができる。
2. 主体的に学ぶことができる。
3. チームの一員として積極的に活動することができる。

【関心・意欲】

1. 専門分野の修得について強い関心と意欲を持っている。
2. DX やスマート化、先端的生物生産・利用、生産基盤の環境保全の様々な問題について高い関心を持ち、地域の課題を率先的に学び、解決に導く意欲がある。
3. データサイエンスに関する専門的な知識を修得し、地域社会及び国際社会に役立つ研究・開発を行う意欲がある。

■農林資源科学科 フィールド科学コース

【養成する人物像】

フィールド科学コースは、「農林業や環境保全を対象としたフィールド科学に関連する専門的知識、技術及び研究能力を有し、地域の課題を積極的に解決できる人材」を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

【知識・技能】

1. 専門的知識の修得に必要となる、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識・技能を有する。

【思考力・判断力・表現力】

1. 物事を客観的にとらえることができる。
2. 得られた知識及びデータに基づいて科学的・合理的思考ができる。
3. 正しい日本語、英語や数式を使って、自らの思考を適切に表現することができる。

【主体性・多様性・協働性】

1. さまざまな人と意見交換ができる。
2. 主体的に学ぶことができる。
3. チームの一員として積極的に活動することができる。

【関心・意欲】

1. 常識ある社会人として社会に貢献する熱意がある。
2. 地域の課題を率先的に学び、解決に導く意欲がある。
3. 専門分野の修得について強い関心と意欲を持っている。

■農林資源科学科 農芸化学コース

【養成する人物像】

農芸化学コースは、「化学的視点から生物生産を幅広く探求でき、その成果を地域社会への貢献に結びつけられる人材」を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

【知識・技能】

1. 農芸化学分野、DX に関連する専門的知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識があり理解している。

【思考力・判断力・表現力】

1. 生命現象や食料生産の場を取り巻く生態系を化学的に観察し考察できる。
2. 言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現する基礎が身についている。
3. 物事を客観的にとらえることができる。
4. 得られた知識やデータに基づいて科学的・論理的に判断することができる。

【主体性・多様性・協働性】

1. 主体的かつ真摯に学ぶことができる。
2. さまざまな分野に興味を持つ多様な人々と、理科、特に化学や生物に関する意見交換ができる。
3. チームの一員として主体的・積極的に活動することができる。
4. 豊かな感性、高い倫理観、協調性を備えている。

【関心・意欲】

1. 生命現象を遺伝子やタンパク質、生理的な機能を持つ化合物など、目に見えない分子レベルで解明し、我々の生活に役立つ技術開発を行う意欲がある。
2. 食料生産の場を取り巻く生態系に興味を持ち、土壌・動物・植物・微生物が果たす役割について理解し、生活環境の改善に役立てる意欲がある。
3. 健康増進作用など食品が持つ多様な機能について学ぶ意欲がある。
4. 生命現象、生物が生産する物質、食と健康、多様な生態系などを化学の視点から理解し、それらを利用して地域社会に役立つ研究・開発を行う意欲がある。
5. データサイエンスに関する専門的な知識を修得し、地域社会及び国際社会に役立つ研究・開発を行う意欲がある。
6. 理科、特に化学や生物に関連する学問や研究に強い関心を持っている。

●海洋資源科学科

【養成する人物像】

海洋資源の有効活用による持続的社会的創造を志し、俯瞰的に問題を分析し、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握し、実際に行動し解決できる能力を有するとともに、海洋生物生産、海底資源環境、または海洋生命科学に関する専門的な知識、並びに海洋科学のDXに資するデータサイエンスの知識を併せもった海洋資源管理に長けた実践力のある海洋専門人材を育成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

【知識・技能】

1. 専門的知識の修得に必要となる、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識・技能を有する。

【思考力・判断力・表現力】

1. 「海洋資源」および「海洋資源管理」に関する諸問題や疑問となることを理解し、解決策を探究するうえで必要となる論理的思考力、読解力を有する。
2. 言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現する基礎を身につけている。

【主体性・多様性・協働性】

1. 「海洋資源」および「海洋資源管理」に関心を持ち、地域社会及び国際社会に役立つ研究・開発を行いたいと考えている。
2. 本学の教育研究環境を最大限活用して、自ら主体的に学び、成長しようという意志を持ち、多様な人々と協働しながら学ぶことで知を深めていこうとする能動的な姿勢を持っている。

【関心・意欲】

1. 専門分野の修得について強い関心と意欲を持っている。

■海洋資源科学科 海洋生物生産学コース

【養成する人物像】

海洋生物生産学コースは、「海洋生物資源の育成・管理・利用に関する知識・技術を身につけ、“持続可能な海洋生物生産”に関わる課題を科学的な観点・思考から理解・解決できる人材」を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

【知識・技能】

1. 海洋の生物生産に関する専門的な知識を修得するために必要となる高等学校卒業程度の教科学習に関して知識があり理解している。

【思考力・判断力・表現力】

1. 科学的・論理的な思考で物事を分析しながら、解決すべき問題や方策を考えることができる。

2. 言語や数式を使って、自らの思考を論理的に表現する基礎が身についている。

【主体性・多様性・協働性】

1. 主体的に学ぶことができる。

2. 異分野を含む多様な人々と協働できる。

【関心・意欲】

1. 「海洋生物資源」及び「海洋資源管理」に関心を持ち、海洋生物資源の育成・管理・利用に関することに取り組もうとする意欲がある。

■海洋資源科学科 海底資源環境学コース

【養成する人物像】

海底資源環境学コースは、地学、化学、物理学の分野から、「海底資源」の探査と環境保全も視野に入れた開発に貢献することができ、周囲の環境からその形成メカニズムを理解することができる人材を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

【知識・技能】

1. 海底資源環境に関する専門的知識を修得するために必要となる高等学校の教科、特に理科に関する基礎的な知識を有する。

【思考力・判断力・表現力】

1. さまざまな問題について、科学的思考から総合的に判断し、行動、解決する基礎が身についている。

2. 言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現する基礎が身についている。

【主体性・多様性・協働性】

1. 理科に関して主体的に学ぶことができる。

2. 異分野を含む多様な人々と協調・協働できる。

【関心・意欲】

1. 「海底資源」及び「海洋資源を管理すること」に関心を持ち、地域社会及び国際社会に役立つ研究や開発を行う意欲がある。

■海洋資源科学科 海洋生命科学コース

【養成する人物像】

海洋生命科学コースは、「海洋で起こる生命現象や海洋生物由来の有用物質等について、生物学並びに化学的視点から幅広く探求でき、その成果を国際社会及び地域社会への貢献に結びつけられる人材」を養成します。

【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】

【知識・技能】

1. 海洋フィールドでみられる、生命現象や海洋生物由来の有用物質や海洋資源の管理に関連する専門的知識を修得するために必要となる、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識・技能を有する。

【思考力・判断力・表現力】

1. 海洋フィールドでみられる生命現象、海洋生物由来の有用物質や海洋資源の管理について、化学あるいは生物学の視点から観察し考察するための基礎的な思考力と判断力を有する。

2. 言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現するための基礎が身についている。

3. 物事を客観的に捉えるための基礎が身についている。

4. 得られた知識やデータに基づいて科学的・論理的に判断するための基礎が身についている。

【主体性・多様性・協働性】

1. 海洋フィールドでみられる生命現象や海洋生物由来の有用物質に関係する知識及び最新成果について、主体的かつ真摯に学ぶための基礎が身についている。

<p>2. 理科に関して主体性を持って学ぶことができる。</p> <p>3. 異分野を含むさまざまな人々と、海洋生命科学に関連した意見交換を行い協働するための基礎が身についている。</p> <p>4. 豊かな感性、高い倫理観、協調性を備えるための基礎が身についている。</p> <p>5. チームの一員として主体的・積極的に活動するための基礎が身についている。</p> <p>【関心・意欲】</p> <p>1. 生物をはじめとする海洋資源、海洋フィールドでみられる生命現象、並びに海洋生物由来の有用物質について関心を持ち、生物学ならびに化学的視点から地域社会及び国際社会に役立つ研究・開発を行う意欲がある。</p>
--

<p>学部等名 地域協働学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：高知大学ウェブサイト (学部の教育研究上の目的) https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/faculty-objectives/</p>
<p>(概要) 地域及びキャンパスでの協働的学びによって、地域理解力、企画立案力、協働実践力を基盤とした地域協働マネジメント力を修得させ、総合的かつ的確な判断力と何事も最後までやりぬく粘り強さを身につけさせる。このことを通じて、地域の再生と発展を担う「地域協働型産業人材」として、①6次産業化人、②産業の地域協働リーダー、③行政の地域協働リーダー、④生活・文化の地域協働リーダーを育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー) https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/</p>
<p>(概要) ●<u>地域協働学部地域協働学科</u> 本学部は、地域社会が抱える課題を「地域協働」を通じて解決することのできる「地域協働人材 (地域理解力・企画立案力・協働実践力の3つの能力を統合した「地域協働マネジメント力」を有し、多様で複雑な地域の課題を発見しその解決のための取り組みを行う中で、立場や利害を越えて人や組織などの協働を創出・促進することができる人材)」を育成するため、学生がこの人材に必要とされる能力を修得することをめざしている。</p> <p>【対課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会を理解するために必要な知識を身につけ、活用することができる。 ・地域社会で多様な人々と協働するために必要な知識を身につけ、活用することができる。 ・地域社会を理解した上で課題を把握し、その課題への対策を考えることができる。 <p>[専門分野に関する知識]</p> <p>1. 地域社会および地域協働に関する専門的知識を修得し、活用することができる。</p> <p>[人類の文化・社会・自然に関する知識]</p> <p>1. 地域社会および地域協働に関する基礎的で幅広い知識を修得し、活用することがで</p>

きる。

〔論理的思考力〕

1. 地域課題を把握するために必要な情報を収集し、分析することができる。
2. 地域課題への対策について筋道を立てて論理的に考えることができる。

〔課題探求力〕

1. 十分な地域理解に基づき、地域課題を探求し発見することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 地域情報を多様な情報源から多様な形式で収集することができる。

【対人】

- ・地域課題解決に向けた関係性理解および構築に必要な技能を身につけて活用することができる。
- ・地域の多様な人々との協働により実践するために必要な各種技能を身につけて活用することができる。
- ・地域社会に深い関心を持ち、地域課題の解決をめざす協働を作り出すことができる。

〔表現力〕

1. 地域の状況や課題を、客観的な形でまとめることができる。
2. 地域協働の事業企画を、他者の理解が容易な形でまとめ表現することができる。
3. 地域協働の事業評価を、事業の成果と今後の改善策が明確な形でまとめ表現することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 学生同士および地域の人々に対して共感力をもって接することができる。
2. 学生同士および地域の人々と協力的な関係性を構築することができる。
3. 学生同士および地域の人々とチームを作ることができ、その中で自分の役割を果たすことができる。

〔協働実践力〕

1. 地域課題の解決に向けて、地域の人々との協働を組織し、地域理解および事業の企画・実施・評価を繰り返し実践することができる。
2. 上記「1.」の活動を通し、学生が地域課題解決能力を身につけることができる。
3. 上記「1.」の活動を通し、地域の人々の地域課題解決能力向上にも貢献することができる。

【対自己】

- ・地域協働のために必要な基礎的能力・態度を備えている。

〔自律力〕

1. 自己管理能力を身につけている。
2. 地域協働の活動を長期継続的に実施できる

〔倫理観〕

1. 地域で人々と協働するために必要とされる基本的なルールやマナーに従って行動できる。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 講義や演習で修得したことを、地域における協働実践の場で活用し、自分から周囲に積極的に働きかけることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：高知大学ウェブサイト (教育に関するポリシー)

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/>

(概要)

●地域協働学部地域協働学科

【教育内容】

地域協働学部の学士像 (ディプロマ・ポリシー) を実現するために、教室における知識の修得と地域の現場における実践の往還の中で「地域協働マネジメント力」を身につけることをめざし、本学部教育課程を編成しています。

1. 共通教育科目

大学生に必要とされる幅広い教養や基礎的スキルを身につけるために、共通教育科目を配置しています。

2. 講義科目、演習科目

専門分野の知識・技法を修得するために、「総合科目」及び「地域協働マネジメント分野」、「地域産業分野」、「地域生活分野」の科目を配置しています。「総合科目」は、基礎的専門知識・技法を学ぶ科目と位置づけ、主に、必修又は選択必修として1年次を中心に配置しています。また、3つの分野においては、2年次以降に学生自らがめざす人材像を念頭に置きながら、各分野から1科目2単位以上を選択して専門分野の知識・技法を幅広く修得するよう科目を配置しています。

3. 実習研究科目

地域の人々と協働しながら、地域の特性を理解し、地域課題解決のための事業企画を立案・実施する実践的取り組みを行う科目として、またその実践の中で地域課題に関する理論的考察を行う科目として「地域協働総合実習科目」を1年次から3年次まで必修科目として配置しています。この科目は、地域における実践とそれを通しての考察の中で、学生各人が講義や演習で修得した知識や技能を統合して発揮する、各学年の総括的科目として位置付けられています。

4. 地域協働実践・卒業研究

本学部における学修の集大成のために、「地域協働総合実習・卒業研究」を4年間の学びの成果を総括する科目と位置づけ4年次の必修科目として配置しています。

【教育方法】

1. アクティブ・ラーニング

学生の主体的な学びを促進させるために、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施します。

2. ルーブリック

学生の学修の到達度を明確にすることで、学生自身が自己の学修到達度を確認できそのことにより学修意欲が向上することをめざし、「地域協働総合実習科目」において、本学部が養成をめざす人材が身につけるべき「地域協働マネジメント力」を構成する3つの能力である「地域理解力」「企画立案力」「協働実践力」に関するルーブリックを用いて、学修指導を実施します。

3. フィードバック

学生の学修をより深めるため、「地域協働総合実習科目」における「振り返りシート」をはじめ、各種授業科目で学生に対するフィードバックを用いた学修指導を実施します。

<p>4. 面談 学生の学修状況を把握し適切な指導を行うため、「地域協働総合実習科目」において、年間4回の面談により学修指導を実施します。</p> <p>5. 教育情報の蓄積・共有化・交流の促進 授業の内容・成果などに関する各種情報を学部内で蓄積・共有し、有効活用して各教員の授業を充実させていきます。また授業内容・教育方法をより高めるため、授業内容の交流や改善に関するFDを行います。</p> <p>【教育評価】</p> <p>1. 学生の学修成果に関する評価 各授業科目の学期末成績評価はシラバスに記されている評価方法によって行います。4年次の「地域協働総合実習・卒業研究」における卒業研究については複数教員による指導と審査を行います。</p> <p>2. 各教員の教育内容・教育方法の改善 各教員は、授業改善アンケートによる意見聴取や、学生面談による学修到達度の把握等に基づき、教育内容・教育方法の改善を行います。</p> <p>3. カリキュラムの改善 学部は、「ディプロマ・ポリシーの到達度」「学修成果の到達度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価し、その結果を基にカリキュラムの改善を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：高知大学ウェブサイト(教育に関するポリシー)) https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/education-policies/</p>
<p>(概要)</p> <p>●地域協働学部地域協働学科</p> <p>【養成する人物像】</p> <p>地域協働学部は、地域理解力、企画立案力、協働実践力という3つの知識・能力を統合した「地域協働マネジメント力」を有し、多様で複雑な地域の課題を発見しその解決のための取り組みを行う中で、立場や利害を越えて人や組織などの協働を創出・促進することができる「地域協働人材」を育成します。</p> <p>【求める学生像及び高等学校段階で修得すべき内容・水準】</p> <p>知識・技能</p> <p>1. 地域協働に関連する専門的知識を修得するために必要となる、理系・文系を問わない幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識・技能を有している。</p> <p>思考力・判断力・表現力</p> <p>1. 物事を論理的に思考する能力を有している。 2. 物事を客観的に分析し判断する能力を有している。 3. 自分の意見を口頭と文章の両面で他者に適切に伝えることができる表現能力を有している。</p> <p>主体性・多様性・協働性</p> <p>1. 主体的に課題の探求や解決にあたる態度を有している。 2. 課題について多様な考え方を受け入れる態度を有している。 3. 考え方や価値観の異なるさまざまな人と協働し課題の解決にのぞむ態度を有している。</p> <p>関心・意欲</p> <p>1. 地域社会に存在する諸課題とその実践的解決に関心を持っている。 2. 地域課題解決や地域振興に向けた協働的活動に粘り強く取り組む意欲を持っている。 3. 地域での協働的取り組みの中で自分が成長することに意欲を持っている。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：高知大学ウェブサイト（大学組織）

<https://www.kochi-u.ac.jp/about/outline/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	10人	—					10人
人文社会科学部	—	19人	19人	11人	0人	0人	49人
教育学部	—	23人	17人	13人	1人	0人	54人
理工学部	—	30人	26人	11人	2人	0人	69人
医学部	—	44人	26人	18人	66人	0人	154人
農林海洋科学部	—	35人	16人	10人	7人	0人	68人
地域協働学部	—	11人	6人	2人	1人	0人	20人
大学院	—	8人	2人	2人	0人	0人	12人
附属病院	—	16人	7人	30人	82人	0人	135人
その他	—	27人	12人	12人	14人	0人	65人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
3人			234人				237人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://researchers.kochi-u.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	—	—	—	—	人	—	—	—
人文社会科学部	275人	287人	104.4%	1,100人	1,219人	110.8%	2人	1人
教育学部	130人	133人	102.3%	520人	550人	105.8%	0人	0人
理工学部	240人	247人	102.9%	960人	1,062人	110.6%	20人	19人
医学部医学科	109人	110人	100.9%	658人	689人	104.7%	5人	5人
医学部看護学科	60人	64人	106.7%	240人	252人	105.0%	2人	2人
農林海洋科学部	205人	212人	103.4%	810人	884人	109.1%	2人	3人
地域協働学部	60人	65人	108.3%	240人	261人	108.8%	0人	0人

合計	1,079人	1,118人	103.6%	4,528人	4,917人	108.6%	31人	25人
(備考) 人文学部：平成28年度募集停止 理学部：平成29年度募集停止								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
人文社会科学部	285人 (100%)	9人 (3.2%)	245人 (86.0%)	31人 (10.9%)
教育学部	137人 (100%)	4人 (2.9%)	128人 (93.4%)	5人 (3.6%)
理工学部	241人 (100%)	89人 (36.9%)	130人 (53.9%)	22人 (9.1%)
医学部	166人 (100%)	5人 (3.0%)	154人 (92.8%)	7人 (4.2%)
農林海洋科学部	181人 (100%)	53人 (29.3%)	120人 (66.3%)	8人 (4.4%)
地域協働学部	60人 (100%)	3人 (5.0%)	54人 (90.0%)	3人 (5.0%)
合計	1071人 (100%)	163人 (15.2%)	832人 (77.7%)	76人 (7.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では2学期制を採用し、各学期に授業 15 週と試験 1 週の合計 16 週の時間を確保するよう学年暦及び年間行事予定を年度ごとに策定しています。</p> <p>授業計画（シラバス）の作成にあたっては、開講の前年度 12 月までに履修案内（授業の履修方法、卒業のために必要な単位数、授業時間割等を記載した冊子（全学生に配布））の作成過程で開講する授業科目を確定し、1月から2月の間に全学的に定めた統一様式へ、授業実施教員は、授業計画を記載し開講主体である各学部等の確認を経て、本学のウェブサイトを通じて教務情報システムにより学内外へ公表しています。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスの「成績評価の基準と方法」には、授業科目の到達目標に掲げた内容について、どのような方法（期末試験、レポート提出など）で何点の配分で評価するのかを記載しており、この基準により厳格かつ適正に単位を付与しています。</p> <p>授業では、授業科目ごとに到達目標を達成したかどうかによって成績評価することを基本としており、成績は 100 点から 0 点の評点により評価し、60 点以上に単位を与えることとしています。また、その評点に対応する評語として、「秀」、「優」、「良」、「可」及び「不可」を用いますが、必要と認める場合は、「合格」又は「不合格」の評語で評価できることとしています。</p> <p>秀：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績（90 点～100 点）</p> <p>優：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績（80 点～89 点）</p> <p>良：到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績（70 点～79 点）</p> <p>可：標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績（60 点～69 点）</p> <p>不可：到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績（59 点以下）</p> <p>また、高知大学のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の領域で定義され、卒業までに身につけてほしい 10 + 1 の能力を定め</p>
--

ています。
 学生がこれらの 10 の能力を学士課程全体で身につけ、さらにそれらの諸能力が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な力（+1 の能力）となるような教育をめざします。このような力を背景にもち、高度で実践的な専門能力を身につけることにより、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成し、各学部等で定める必要単位数を修得した者に学位を授与します。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文社会科学部	人文社会科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
教育学部	学校教育教員養成課程 幼児教育コース 教育科学コース 国語教育コース 社会科教育コース 数学教育コース 理科教育コース 英語教育コース 音楽教育コース 美術教育コース 保健体育教育コース 技術教育コース 家庭科教育コース	133 単位	有	1 学期間 22 単位
	学校教育教員養成課程 科学技術教育コース 特別支援教育コース	144 単位	有	1 学期間 22 単位
理工学部	数学物理学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	情報科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	生物科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	化学生命理工学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	地球環境防災学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
医学部	医学科	206 単位	有	該当なし
	看護学科(看護学コース)	128 単位	有	該当なし
	看護学科(公衆衛生看護学コース)	149 単位	有	該当なし
農林海洋科学部	農林資源科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
	海洋資源科学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
地域協働学部	地域協働学科	124 単位	有	1 学期間 22 単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法: 高知大学教務情報システム(履修案内) 全学共通事項メニュー https://kulas.kochi-u.ac.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1600/3000130/wrs/RishuAnnai		
学生の学修状況に係る参考情報(任意記載事項)		公表方法: 高知大学ウェブサイト(教育情報の公表) https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：高知大学ウェブサイト（教育情報の公表）

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/>
高知大学ホームページ（大学案内）

<https://www.kochi-u.ac.jp/about/public-relations/university-guide>
（※上記 URL からデジタルパンフレット入手可能）

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)	
人文社会科学部	人文社会科学科	535,800円	282,000円	0円		
教育学部	学校教育教員養成課程			40,000円	保育実習経費 (幼児教育コースのみ)	
理工学部	数学物理学科			0円		
	情報科学科			0円		
	生物科学科			0円		
	化学生命理工学科			0円		
	地球環境防災学科			0円		
医学部	医学科				0円	
	看護学科				115,280円	e テキスト代(4か年分)
農林海洋科学部	農林資源科学科				0円	
	海洋資源科学科 (新課程)				0円	
	農林資源環境科学科				0円	
	農芸化学科		0円			
	海洋資源科学科 (旧課程)		0円			
地域協働学部	地域協働学科		90,000円	フィールド実習費		

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
1. アドバイザー教員制度 高知大学では、学生が大学生活を円滑に進められるように、アドバイザー教員制度を設けている。アドバイザー教員は、学生の所属する各学部等の基幹教員が担当し、学部が定めた定期的な面談や、学生からの求めに応じて随時行う面談の中で、履修計画及び進学・就職・健康や心配事等の学生生活全般に係る問題について助言・指導を行う。また、必要に応じて学内の相談窓口（保健管理センターや学生支援課の「学生何でも相談室」等）に学生をつなぐ役割も担っている。 <参照>高知大学学び創造センター学生支援部門ウェブサイト(大学での学びに関する支援) https://www.kochi-u.ac.jp/facilities/gakusei-shien/students/learning-difficulties.html

2. 学び創造センター学生支援部門

学び創造センター学生支援部門は、ラーニングサポートユニット及びインクルージョン支援推進室で構成されており、学生支援課（学生何でも相談室等）、学務課、各学部、保健管理センター等と連携し、学生の学修に関する支援や障害学生等への支援の充実に取り組んでいる。

＜参照＞高知大学学び創造センター学生支援部門ウェブサイト（学生支援部門について）

<https://www.kochi-u.ac.jp/facilities/gakusei-shien/center/about.html>

（1）ラーニングサポートユニットは、各学部、学術情報基盤図書館等と連携して、大学での学びに必要な学習スキル修得の支援を行っている。

特にレポート作成は修学上必要とされる最も重要なスキルであるため、初年次科目や共通教育科目（例、大学基礎論、学問基礎論、レポート作成スキルとしての日本語表現）においてレポートの作成方法を伝えている。また、「レポート作成セミナー」などを開催し、授業だけでは伝えきれない情報を伝えると同時に、演習形式で多くの学生の修学支援を展開している。

その他に、教職員への支援として、学生指導の中心となるアドバイザー教員制度の仕組みや学生対応の基本姿勢についての理解を深める学内啓発も行っている。

（2）インクルージョン支援推進室は、障害の有無や多様な背景に関わらず全ての人々が大学における全ての活動において包摂（インクルージョン）される環境を創造していく活動を支援している。具体的には、①障害や病気（難病、疾病、事故による機能低下なども含む）による修学上の困難がある学生への合理的配慮に関する相談や支援計画の策定、②学内の施設・設備といったハード面だけでなく、情報アクセスや制度などのソフト面におけるバリアフリーやユニバーサルデザイン化の推進、③多様な学生にとっての居場所・支援機能をもつスペース（キャンパスライフ支援ルーム「からふるパレット」）の提供、④障害や多様性についての学内外啓発活動を行っている。

特に、障害・病気のある学生への修学支援として、身体機能や感覚機能の疾病・障害などにより修学上の支援ニーズがある学生、コミュニケーションの苦手さやこだわりの強さがある学生、スケジュール管理がうまくいかないなどによって修学で困っている学生、その他さまざまな修学上の困りごとを抱える学生について、学部や大学院、保健管理センターや学生何でも相談室と連携のうえ合理的配慮に関する支援等を行っている。

【参照】高知大学学び創造センター学生支援部門ウェブサイト（ユニット・室紹介）

<https://www.kochi-u.ac.jp/facilities/gakusei-shien/center/unit-intros.html>

【参照】障害・病気のある学生への修学支援

<https://www.kochi-u.ac.jp/facilities/gakusei-shien/students/disabilities.html>

3. 入学金及び前期分授業料等の徴収猶予制度

日本学生支援機構の給付奨学金の採用候補者である入学者又は在学採用に申し込み予定の入学者のうち、入学手続きの際に授業料等減免の対象者の認定に関する申請書（A様式1）を大学に提出した場合、入学料及び前期分授業料の徴収については、免除に係る決定が通知されるまでの間は猶予される。

入学後に授業料等減免の対象者の認定に関する申請書（A様式1）を提出した場合、既納の入学料については、免除に係る決定通知を送付後に所定の手続きを経たうえで、減免額分の入学料が本人に返還される。

参照：高知大学ウェブサイト

高等教育修学支援新制度について（入学料免除+授業料免除）

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/tuition-aid/entrance-fee-support/>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

1. 就職室（学生支援課）を窓口とし、①就職等進路に関する相談（専門的な知識・経験を有する就職相談員が、自己分析・企業・教職等について、あらゆる相談に応じる。②人事コンサルタント、就職相談員の企画・監修により、就職活動に取り組むためのガイドブック「Ambition—高知大学就職ガイドブック」を作成し、学内ポータルサイトに公開している。③2年生の2月から就活ガイダンスを開始し、就職活動の心構えから、エントリーシート・履歴書の書き方、会社訪問のアドバイスなど、様々なガイダンスを企画・実施している。就職活動に取り組む際の心構えや、公務員・教員採用試験についての説明会、業界研究セミナーの開催、エントリーシートの書き方やビジネスマナーのような実践講座など、テーマと時期を考慮したガイダンスを実施している。④県内外企業 10,000 社以上の求人情報は、WEBシステム「高知大学求人情報システム・高知大就職ナビ」から見る事ができる。企業から送られてきたパンフレット等がある場合は、就職室のファイルを自由に閲覧できる。⑤採用選考試験に係る対策本や企業研究書籍、教員採用試験・公務員試験問題集、その他参考図書・雑誌の閲覧・貸出を実施しているほか、個別企業説明会の開催、就職マッチング支援、学内WEBシステムでの情報発信、就職活動を終えた学生が企業情報、試験内容、内定までの行動経過等を記入した資料の閲覧を実施している。

2. 岡豊キャンパス/学生課では、求人等の就職関係情報について、臨床研修医に関しては学生課、保健師・看護師に関しては看護学科棟の就職情報コーナーに常置し自由に閲覧できる体制としている。アドバイザー教員、学生課へ相談できる。

3. 物部キャンパス/物部総務課学務室では、農林海洋関係の求人情報、企業データ等が閲覧でき、各種の参考図書、雑誌は貸出しも行う。会社説明会、各種ガイダンスも実施している。アドバイザー教員、学務室へ相談できる。

(参照：高知大学 HP HOME > 就職支援 > 在学生の皆様へ)利用案内

<https://www.kochi-u.ac.jp/career/students/guide/>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

各キャンパスに医師および看護師（物部キャンパスは看護師のみ）、加えて朝倉キャンパスには公認心理師が常駐しており、年間を通して医療相談、内科的診療、ケガの応急手当、メンタルヘルス維持のためのカウンセリング等を行うほか、修学上あるいは生活面で困りごとのある学生や合理的配慮を受けている学生について、学び創造センター学生支援部門インクルージョン支援推進室や学生何でも相談室、各学部等と、必要に応じて連携および情報共有を図り、学生が心身の健康を維持しながら修学できるよう補助的役割を担う。

また、健康教育や保健指導、感染症予防等の啓発活動を行う等、安全・安心な学生生活となる環境づくりを支援している。

定期健康診断では、健康診断結果に応じて個別指導を行うほか、困りごと等を点数化することで健康状態を知り、学生生活のサポート役となれることを目的に、心身の状態やコミュニケーション・対人関係の特徴等を知る質問項目の健康調査を、新入生（編入生を含む）に対し実施している。

参照：高知大学 保健管理センター ウェブサイト

(<https://www.kochi-u.ac.jp/hokekan/index.html>)

【朝倉キャンパス】

○ 内科医による診察・投薬等や医療相談を行っており、婦人科医（学校医）による医療相談も毎月1回（8月と3月は除く）行う。また、精神科医や公認心理師がカウンセリングを行い、看護師も相談業務（よろず相談）に対応している。

参照：高知大学 保健管理センター ウェブサイト（朝倉キャンパス ころの相談室）

<https://www.kochi-u.ac.jp/hokekan/campus/asakura.html#kokoro>

○ 学内における体調不良者やケガ人の応急手当をし、状態によっては外部医療機関を紹介する。

○ 体成分測定装置やエアロバイクがあり、スポーツジム感覚で利用することもできる。

【物部キャンパス】

○ 内科医による診察や相談を毎月1～2回行っており、精神科医（月4回）や公認心理師（週1回）および臨床心理士（外部委託：週1回）によるカウンセリングも行っている。また看護師も相談業務（よろず相談）に対応している。

参照：高知大学 保健管理センター ウェブサイト（物部キャンパス こころの相談室）
<https://www.kochi-u.ac.jp/hokekan/campus/monobe.html#kokoro>

○ 学内における体調不良者やケガ人の応急手当をし、状態によっては外部医療機関を紹介する。

【岡豊キャンパス】

○ 看護師が健康相談に応じ、病状によっては本学附属病院または外部医療機関を紹介している。また、学内における体調不良者やケガ人の応急手当をする。

精神科医や外部委託の公認心理師および臨床心理士がカウンセリングを行い、看護師も相談業務（よろず相談）に対応している。

参照：高知大学 保健管理センター ウェブサイト（岡豊キャンパス こころの相談室）
<https://www.kochi-u.ac.jp/hokekan/campus/okou.html#kokoro>

○ 医師や看護師等を養成する学部であることから、臨床実習における感染症対策として、以下の対策を実施している。

- 1) 感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）のワクチン接種歴、抗体価を確認
- 2) B型肝炎ワクチン接種を実施し（3回）、その後抗体価検査により抗体価を確認
- 3) 結核対策として胸部レントゲン検査を実施

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：高知大学ウェブサイト（教育情報の公表）

<https://www.kochi-u.ac.jp/education-support/education/information/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F139110110504
学校名 (〇〇大学 等)	高知大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人高知大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生 (内数) ※家計急変による者を除く。		1274人 (838) 人	1241人 (819) 人	1306人 (855) 人
内 訳	第Ⅰ区分	315人	296人	/
	(うち多子世帯)	(64人)	(50人)	
	第Ⅱ区分	135人	137人	
	(うち多子世帯)	(27人)	(31人)	
	第Ⅲ区分	109人	96人	
	(うち多子世帯)	(32人)	(26人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	168人	150人	
	区分外 (多子世帯)	547人	562人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				一人 (一) 人
合計 (年間)				1310人 (855) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	21人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	13人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	36人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	一人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	一人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	一人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	20人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	一人	人	人
GPA等が下位4分の1	129人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	129人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。